

上野原市老人クラブ連合会会誌

むるがや

第38号

令和3年
3月31日発行



二重虹（ダブルレインボー） 幸運の象徴
見た人に幸運が訪れるといわれている

島田桂生会 行田敏雄

巻頭言

上野原市老人クラブ連合会 会長 市川 武士

日頃は上野原市老人クラブ連合会の諸事業に対しまして大変ご尽力を賜り誠に有難う御座いました。今年は特に新型コロナウイルス感染症対策に始まり、天候の不順で梅雨の時期が長く続き農作物が不作。開けたら今度は猛暑が続き、熱中症対策に追われ、大変な年でありました。

中でも、新型コロナウイルス感染症対策は長く続くものと思われませんが、密閉、密集、密接（三密）をしないようにする事だと思っています。一番大切な事は自分自身が個々で考え判断していく事ではないでしょうか。私たち高齢者は誰もが安心して暮らせるよう、地域社会の一員として共に手を携え、支え合って健康長寿で居られるように頑張りましょう。健康長寿の秘訣は人と会う機会を多く作ること、一人で運動するよりも仲間と一緒にする事で、効果が得られると思います。私達にとって健康で長生き出来る事ほど、幸せなことはありません。仲間と一緒に笑い、語り合い、交流する事で、健康長寿を実現できると思います。皆なで一緒に頑張りましょう。

おわりに此の度の「むろがや三八号」の編集にあたり多くの会員の皆様より原稿を頂き誠に有難うございました。心より感謝申し上げますと共に、会員の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

巻頭言	上野原市老人クラブ連合会 会長 市川 武士	1
令和二年度上野原市老人クラブ連合会役員・単位クラブ会長・女性委員名簿		4
令和二年度上野原市老人クラブ連合会事業報告		5
令和二年度 東部地域高齢者作品展		6

活動報告

連合会クラウド・ゴルフ教室に参加して	島田 桂生会	市川 武士	10
上野原市キャラバンメイトの会	にしばら 錦会	横瀬 礼子	11
令和二年度活動報告	原 明朗会	長坂 幸夫	12
「第十二回りんどうの里美術展」	原 明朗会	長坂 幸夫	13

対談

農事茫茫（五）	塚場 長寿会	諸角 弘	15
---------	--------	------	----

随筆

「ミイラ取りがミイラになる」	コモアシニアクラブ	田中 醇治	17
恵林寺雑感	コモアシニアクラブ	中 沢 敦	17
油絵との出会いと現在	コモアシニアクラブ	森 田 榮治	22
新型コロナから学ぶべき事は	沢松 親和会	小 俣 庄三	23
コロナ対応は社会の優しさで	沢松 親和会	小 俣 キヌ子	26
自作漢詩「佳人」と「甲州街道」	島田 桂生会	井 本 克二	26
コロナに負けない人間の知恵	島田 桂生会	碓 井 恆夫	28
「川と河」	西原 なかよし会	長 田 助成	29
新型コロナ禍一人暮らし高齢者のフレイルについて	本三 ほがらか会	石 田 義愛	30
「コロナ禍での書道」	田町・寿クラブ	水 越 久	31
思い出は経験、体験である	小 沢 寿会	森 川 耀雄（明雄）	32
「友よ」	新井 陽亀会	高 橋 勝利	35
「共感する」ということ	新井 陽亀会	水 越 茂子	36
夏の想い出	山風 呂老人会	佐 藤 好文	37

研究

日本、花の文化小史（二）	塚場 長寿会	諸角 弘	38
--------------	--------	------	----

創作

サリ―物語 序章 上野原へ
タンポポの約束

原明朗 会
沢松親和 会

長坂幸夫
市川幸子

文芸欄

俳句

.....

コモアシニアクラブ

今友子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

金子久雄

俳句

.....

コモアシニアクラブ

佐藤纓子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

鈴木千年

俳句

.....

コモアシニアクラブ

田代研一

俳句

.....

コモアシニアクラブ

田中醇治

俳句

.....

コモアシニアクラブ

廣井勝美

俳句

.....

コモアシニアクラブ

山本婕子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

尾形綾乃

俳句

.....

コモアシニアクラブ

尾形富美子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

小俣キヌ子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

安藤久

俳句

.....

コモアシニアクラブ

小俣田鶴子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

安藤美津江

俳句

.....

コモアシニアクラブ

土屋澄子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

中村悦子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

遠藤一子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

小俣庄三

俳句

.....

コモアシニアクラブ

大月佐江子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

森川耀雄(明雄)

俳句

.....

コモアシニアクラブ

波多野千江子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

森川耀雄(明雄)

俳句

.....

コモアシニアクラブ

大神田ふみ子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

市川幸子

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

俳句

.....

コモアシニアクラブ

黒川良人

令和二年度 上野原市老人クラブ連合会

単位クラブ会長・女性委員名簿

上野原市老人クラブ連合会役員

会 長	市川 武士
副 会 長	牧野 伸吾
副 会 長	杉本 茂
副 会 長	横瀬 礼子

女性委員会役員

委 員 長	志村なみ子
副 委 員 長	市川 幸子
副 委 員 長	水越 茂子

上野原市老人クラブ連合会単位クラブ会長

NO	クラブ名	氏 名
1	大 目 豊 明 会	岡部 正子
2	甲 東 き ず な 会	小澤 宗道
3	コモアシニアクラブ	松本喜久雄
4	沢 松 親 和 会	大神田 勲
5	四方津シニアクラブ	岡本 房雄
6	大鶴老人クラブ鶴寿会	小山 岩夫
7	島 田 桂 生 会	井本 克二
8	桐 原 明 老 会	秦野 勝利
9	西 原 な か よ し 会	宇津木富茂
10	秋山高齢者クラブ	杉本 茂
11	諏 訪 悠 々 会	佐藤 通則
12	塚 場 長 寿 会	古家 保
13	新 一 青 老 会	石塚 英一
14	新 二 鶴 友 会	清水 正
15	新三すこやか会	清水 祥
16	本 一 寿 楽 会	細田 和幸
17	本 二 亀 寿 の 会	江口 忠勝
18	本三ほがらか会	山崎 悠
19	原 明 朗 会	長坂 幸夫
20	新田倉同心会	佐藤 勇
21	田 町 寿 ク ラ ブ	加藤 昭夫
22	小 沢 寿 会	加藤 欽弥
23	に し ば ら 錦 会	横瀬 礼子
24	新 井 陽 亀 会	尾形伸太郎
25	向 風 八 幡 会	石井 光雄
26	八 米 泉 会	山崎 宣子
27	山 風 呂 老 人 会	佐藤 好文

上野原市老人クラブ連合会女性委員

NO	クラブ名	氏 名
1	大 目 豊 明 会	安藤 佑子
2	甲 東 き ず な 会	和智千代子
3	コモアシニアクラブ	今 友子
4	沢 松 親 和 会	市川 幸子
5	四方津シニアクラブ	岡本 年江
6	島 田 桂 生 会	吉村チヨ子
7	桐 原 明 老 会	鷹取 賢子
8	西 原 な か よ し 会	船木とめ子
9	秋山高齢者クラブ	志村なみ子
10		原田 英子
11	諏 訪 悠 々 会	金子 節子
12	新 一 青 老 会	東山佳津子
13	新 二 鶴 友 会	大竹 笑子
14	本 一 寿 楽 会	宮下小枝子
15	本 二 亀 寿 の 会	田中 松江
16	本三ほがらか会	杉本 文江
17	原 明 朗 会	長坂 裕子
18	田 町 寿 ク ラ ブ	鈴木 香
19	に し ば ら 錦 会	横瀬芙佐子
20	新 井 陽 亀 会	水越 茂子
21	向 風 八 幡 会	大森 悦子
22	八 米 泉 会	久田 政子

令和二年度 上野原市老人クラブ連合会事業報告

月	日	事業名	会場	備考
令和2年				
4月	7日(火)	会計監査	市総合福祉センターふじみ	監事2名
5月	29日(金)	理事会・総会		書面決議にて議決
6月	24日(水)	グラウンド・ゴルフ教室	桂川野球場	
	26日(金)～ 29日(月)	山梨県シルバー作品展(一般公開は中止)	山梨県立図書館	秦伸一郎(写真)金賞
7月	1日(水)	富士の国シニア山梨だより 夏号発行		
	1・15・22日	グラウンド・ゴルフ教室	桂川野球場	
	2日(木)	市町村老人クラブ連合会事務局連絡調整会議	ぴゅあ総合	事務局2名参加
	7日(火)	市町村老連、単位老人クラブの新任会長、職員等研修会	ぴゅあ富士	会長、事務局3名参加
	8・20・28日	太極拳教室	市総合福祉センターふじみ	
	10日(金)	第5回上野原市グラウンド・ゴルフ大会	桂川野球場	15チーム・74名参加 優勝：島田桂生会A 準優勝：コモアシニアクラブA 3位：秋山高齢者クラブA
8月	5・18・26日	太極拳教室	市総合福祉センターふじみ	
	19日(水)	役員会議	市総合福祉センターふじみ	3名参加
9月	1・2・15・29日	太極拳教室	市総合福祉センターふじみ	
	2・16・30日	グラウンド・ゴルフ教室	桂川野球場	
	4日(金)	第59回山梨県老人福祉大会	甲府市総合市民会館	3名出席・岡本房雄さん(四方津シニアクラブ)県知事表彰、石塚英一さん(新一青老会)県老連会長表彰
	17日(木)	健康づくりリーダー研修会	ぴゅあ富士	2名参加
10月	1日(木)	富士の国シニア山梨だより 秋号発行		
	9日(金)	市町村老人クラブ連合会事務局連絡調整会議	ぴゅあ総合	事務局1名参加
	14・21日	グラウンド・ゴルフ教室	桂川野球場	
	26日(金)	役員会議	市総合福祉センターふじみ	3名参加
11月	17日(火)	役員研修会	秋山老人福祉センター	4名、事務局2名参加
12月	9日(水)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員7名出席

令和3年

1月	15日(金)	富士の国シニア山梨だより 新春号発行		
	15日(金)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員5名出席
		市老連表彰審査会	市総合福祉センターふじみ	
2月	3日(水)	市町村老人クラブ連合会事務局連絡調整会議	ぴゅあ総合	事務局1名参加
	16日(火)～ 18日(木)	東部地域高齢者作品展(一般公開中止・審査会のみ)	市もみじホール1階	46作品出品
	26日(金)	むろがや編集委員会	市総合福祉センターふじみ	むろがや編集委員6名出席
3月	31日(水)	会誌 むろがや 第38号発行	発行部数1,900冊	

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの事業が中止となりました。

中止事業：研修会（地域の支え合いについて・フレイル予防の料理教室）・3市村交流ゲートボール大会・3市老連交流ボウリング大会・いきいき山梨ねんりんピック2020・県シニアゲートボール大会・シルバー囲碁交流大会・3市村交流グラウンド・ゴルフ大会・県老連グラウンド・ゴルフ大会・市老連研修旅行・市町村対抗囲碁大会・市社会福祉大会（市老連会長表彰式）・市町村老連活動発表会

令和二年度 東部地域高齢者作品展

今年度、上野原市での開催となりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般公開は中止・審査会のみで開催となりました。



杉本要子

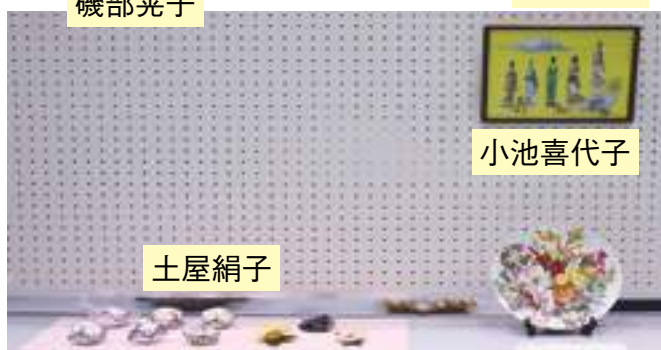
小俣朝子



磯部晃子

石井たつ子

東山迪子



小池喜代子

土屋絹子

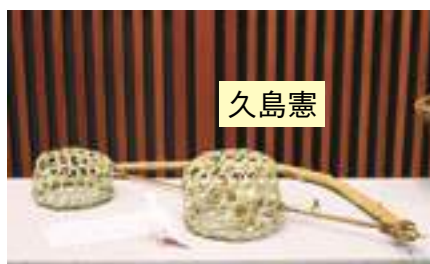


辺見佳子

加藤幸子

中村幸子

清水巴江



久島憲

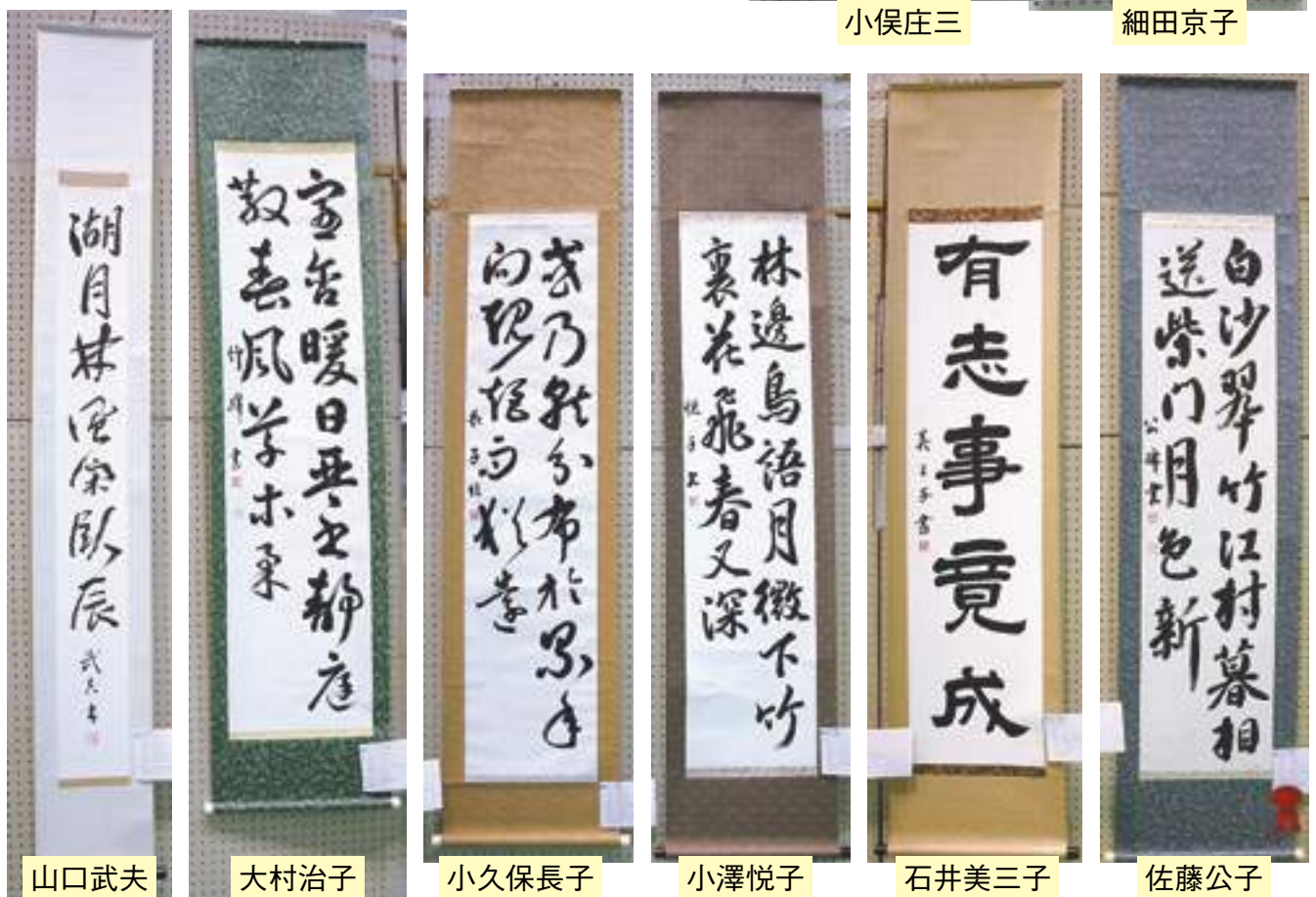


小俣順子



土屋正







秦伸一郎



行田敏雄



阿部勝男



山口浩



吉田多美子



平本静子

佐藤纓子



戸田成子



和智千代子



久保鈴江



碓井恆夫



森田榮治



藤田洋治



市川幸子

活動報告

連合会グラウンド・ゴルフ教室に参加して

上野原市老人クラブ連合会会長 市川 武士

この教室は仲間と共に、体を動かすことを通じ、楽しみながら健康づくりと、会員相互の親睦を深め健康で充実をした生活を送るためのきっかけ作りを目的に実施されます。

今年は非常にやっかいな、新型コロナウイルス感染症対策で密閉、密集、密接（三密）しないよう対策をしました。全員がマスクの着用、グラウンド入口に消毒用アルコールを設置しました。手の消毒、椅子も互いに向き合わないよう間隔を取り、前向きに座る様に設定しました。全員が受付時に体温を測り記録もしました。グループの組み合わせも参加者の交流を深める為に同地区同士で、一緒にならないように組みあわせる為に、地区の代表者がスコアカードに名前を記入して密集を避けました。コース設定は野球場の外野天然芝に二面コースを設定しました。挨拶、競技のルール説明、各グループのメンバ―を発表し、全員がイスに座ってお話を聞くようにしました。各自がクラブとボールを持ち各ホールに向かい、いよいよ、一斉にホイッスルを合図に、快音を響かせ、ポールポストをめがけてボールを打っていました。一打目でホールインワンの人もいました。全員が非常に上達しゲームの進行が早くなりました。ラウンドごとに、休憩をとり親睦を深めました。全員のスコアも良く三ゲームで五十台の人が多くいました。皆な実力がついたなと思いました。

山梨県の大会でも上位に入れると思います。

私が九月十三日山梨県グラウンドゴルフ協会会長杯の大会に、参加してみても他の市町村代表者（三百二十名）と一緒にプレーをしたのですが、グループリーダーで非常に緊張したせいかラウンドは、芝の感じが掴めずに苦戦しましたが、少し馴れたら自分のプレーが出来ました。スコアは二十三打、十六打、で良くないですがグループでは一番良かったです。ちなみに一番は三十二打でした。うまくいかずに泣きたくなったり、悔しい思いをしたりする事も沢山ありますが、ずうっと練習を続けて居られるのは、何かを目指して居るから頑張れるのだと思います。目標を立てて頑張って練習することが、一番大切かも知れません。何回かグラウンドゴルフ教室を開いている内に全員と組み合わせが一緒になり大勢の仲間と交流が出来楽しく無理せず、気張らず、急がず、グラウンドゴルフを継続したいものです。体や頭を働かして、さらに仲間と共に過ごす時間を持つことで、健康長寿を実現できると思います。共にこれからも頑張ります。



上野原市キャラバンメイトの会

にしばら錦会 横瀬 礼子

認知症サポーターを養成する「上野原市キャラバンメイトの会」事務局長の横瀬礼子です。

オレンジリングを腕に、首につけている企業の方々を町中出会ったことがあるでしょう。サポーターのメンバーです。すでに、二、五〇〇名になるとのこと。「上野原市キャラバンメイトの会」は、超高齢化社会を迎えるにあたり、サポーターを各地区に養成することを展開、実施しています。

〔1〕 どんな社会がやがて来るのだろうか。

〔2〕 高齢者ばかりの地域が誕生すること。

〔3〕 一人暮らし高齢者のお家が占める地区が圧倒的。

〔4〕 サポートしてくれる人は、いるのだろうか。

〔5〕 老人介護施設は、いつでも入所できるのだろうか。

こういう時が間もなくやってきます。

私自身が、その該当者であり、①健康で、②自己判断ができ、③ご近所の皆さまと協調して暮らせるだろうか。④病気は、しないだろうか。⑤生活困窮者とならないだろうか・・・。

こういうことをいつも考えています。

今できることをする。後悔しない人生を送る。そんな地域を創ることをと、認知症サポーター養成講座を全地域に展開していき、一人でも多くの人たちに認知症を理解してもらいたいと現在、活動しています。

そこで、キャラバンメイトの仲間の一人である生稲治子さんが、介護保険制度ができる前の平成三年頃、ボケ老人が町の中に発症し始めた頃、大月の保健所管内に、ひとりぼっちで介護するより、家族同士の仲間を集めて、相談できる環境作りを結成しようとの動きがあり、第一号の会長となつて三十年。

上野原市キャラバンメイトの会会員でもあり、生稲治子さんに原稿をお願いしたので、紹介させていただきます。

「オレンジリングの花を咲かせましょう」

オレンジリングは認知症サポーターの目印です。認知症サポーターは、認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法等を認知症サポーター講座で学習していただき、認知症の人やその家族を支えるサポーターとしての資格です。

認知症は誰にでも起こりうる脳の病気に起因するものです。八十五才以上の四人に一人はその症状があると言われている現状、他人事ではありません。私も団塊世代の高齢者です。生活の中で忘れることが多くなり明日は我が身の心境です。五年後には後期高齢者になり、二〇二五年には四七〇万人程度まで増加することが予想されるそうです。

認知症予防のための生活習慣の改善もさることながら、もし認知症になった時、認知症サポーターオレンジリングの花が上野原にやさしく咲いていたら、安心して住み慣れた場所で暮し続けることができるのではと常日頃思っています。認知症になっても「尊厳ある暮し」をみんなで守り、助け合い支え合いのできるオレンジリングの輪（和）をつないでいきましょう。私事ですが、母が老人性アル

ツハイマー型認知症になり自宅で介護をして二十年前に看取りました。当時は介護保険制度ではなく措置制度でした。今のような多種多様の介護サービスはなく、世間の偏見もあり孤立状態でした。そこで保健師さんの呼びかけで、ボケ老人を支える家族会の設立となり、平成三年三月に発足しました。家族会は県や全国組織へとつながってましたので、私達は大きな機知を得ることができました。あした葉劇団（山梨県認知症家族会）での啓発活動にも参加しました。その後ボケ老人が差別語ということで、認知症老人と改称されました（私個人としてはボケの方がかわいいかな？）。家族会での情報交換・交流など仲間同志の支え合いで、孤立から社会参加へと前向きに二十五年間も活動してきました。上野原の家族会は閉会し、現在は認知症サポーターとして展開しております。

上野原市認知症サポーターキャラバンメイトは、サポーター養成講座を各地域で開催し、オレンジリングの種をまき、やさしい花を住民の皆さんと一緒に咲かせたい強い思いがあります。コロナ渦中の活動は困難になっていますが、この閉鎖的な現状だからこそサポーターの支えが必要になるのではと感じています。コロナ感染予防にしっかり配慮しながら小さな活動をしていきたいと思っております。

ちなみに上野原市の認知症サポーターは、約二、五〇〇人になりました。認知症になっても安心して暮していけるよう上野原市に、オレンジリングの花を咲かせましょう。困った時は、一人で悩まないで、サポーターに声をかけて下さい。

令和二年九月二十一日世界アルツハイマーデイ記

キャラバンメイト 生稲治子

令和二年度活動報告

原明朗会 長 坂 幸 夫

四月初め新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言を受けていったんは全ての事業計画を中止せざるを得ない状況となりました。しかし、コロナウイルス感染は波のように高くなったり低くなったりし簡単には終息しない中、経済活動とのバランスをとることの必要が叫ばれるようになりました。そこで私たちはWith Coronaの新しい生活をする時代へと変わっていきました。

明朗会では総会後の懇親会、春秋の小旅行、新年会の三大行事と月例行事になっている「いきいきサロン」そして毎週火曜日の「いきいき百歳体操」が行われてきました。それが四月にはこの行事が全て本年は行えないという事態になりました。新聞、テレビではコロナによる「巣ごもり症候群」が話題になって来ました。私は明朗会の会員の皆さんが「巣ごもり」のようなことにはならないようにしたいと考え活動自粛制限の緩和処置を睨みながら活動に工夫をして再開することにしたのです。基本として「三密を避けること」、「換気」、「手の消毒」、「マスクの着用」を常に参加者が心がけることとしました。

昼食弁当を会員の各家庭に配布。

これは新年会、春秋の小旅行、総会後の懇親会に替わるものとしておこないました。五月、六月、十月、十一月、二月、三月の各月に第二、第四水曜日の二回、合計十二回です。常々、お食事会でおなじみの秋山地区の〇料亭の協力で私が案内役になって各家庭を

廻ったのです。これはささやかですがO料亭の経営のお役に立つというGoToEatキャンペーンの趣旨に沿ったものにもなったのです。会員の皆さんからは大変喜ばれると同時に皆さんの安否確認のよい機会にもなったのです。

「**原自治会館は私たちの活動の拠点です。」**

いきいきサロンの再開

毎月十日の午後一時半から三時半に行うもので、プログラムは最初に三十分程度のTVによる健康体操、茶話会。童謡の合唱が定番になっているものです。普通、参加者は大体十五人位で行われていました。そこで、問題になったのは三密をどうやって避けるかです。そのため、開催日を二回にすることにしました。十日を中心にもう一日を前後に置いたのです。原地区には四地区ありますので、一、三地区と、二、四地区の二グループにすると、大体七、八人のグループとなり三密は十分避けられることが出来たのです。

会の最後は童謡を山口高さんのハーモニカ伴奏で合唱するのですが、大声を出す事が出来なくなりましたので懐かしのメロディーをCDで流し、それに合わせてハミングすることにしました。いつも十曲くらいを歌いますので、それに合わせて毎回十曲をハミングで会を閉めたのです。

いきいき百歳体操の再開

いきいき百歳は毎週火曜日の十時～十一時に行います。三月以来何度か中断されて来ましたが、皆さんがいつも再開を待ち望んでいました。原自治会館の二階は十八畳の和室になっています。そこで「やまなしいきいき体操」のビデオをTVで見ながら行います。希望者は誰でも参加できることにしており原区だけではなく他の地区

からも参加しています。通常ほぼ十五人位の参加です。やはり一番注意したのは「三密を避けること」と「換気」でした。窓を開けること、扇風機で室内の空気を外へ出す事を皆さんが積極的に取り組んでくれました。途中、緊急事態宣言のために中断が長く続いても再開の時は参加人数は減ることもなく積極的に参加しています。やはり誰もがコロナで家の中に閉じこもりがちな生活から少しでも解放されたいと思っておられるのでしょう。午前十時開始ですが九時四十分頃から集まり始め体操開始までの短い時間ですが会話を交わすのが楽しみになっているようです。

この文章をつくりましたのは昨年の十一月中旬のころですが、その後十二月に入ってコロナの感染が全国的に増加し始めて第三波の襲来となり緊急事態宣言の発出もあり、いきいき一〇〇歳は継続しサロンは已むなく中止いたしました。

第十二回りんどうの里美術展

原明朗会(りんどうの里美術会 代表) 長坂幸夫

今回の第十二回りんどうの里美術展は市政十五周年の事業として市庁舎の展示室で行われる計画でしたが新型コロナウイルス感染が収まらず中止のやむなきとなりました。

しかし、本年度は市民文化祭はじめ全ての文化活動が中止となる状況の中でなんとか開催出来ないものか考え会場を総合福祉センターふじみに移して実施したものです。山梨県では本年度から県の条例として十一月を「やまなし文化芸術推進月間」を定めまし

た。第十二回りんどうの里美術展は会期を十一月二日(月)～三十日(月)としましたが、はからずも県の文化芸術活動を推進しようとする方針にも合致するものとなったのです。

展示は総合福祉センターふじみの二階、三階のフロアを使うことにして教育委員会を通してお願いしたところ快く承認を得る事が出来たのです。二階は書道の展示、三階は絵画の展示としましたが、市庁舎の展示室とは違いフロアの壁面が大変広いのが今までに無いことでした。そこで、前回までは出品は各人二点まで、サイズは二点の合計がF五十以内としてきましたが、今回はその制限を無くしてサイズは自由、点数は二三点以内としたのです。その結果、絵画部門では十五人、二十三点、書部門は十三人、十七点の合計二十八人、四十作品の参加となりました。写真に見るような大型の作品をはじめとして豪華な作品が展示されたのです。

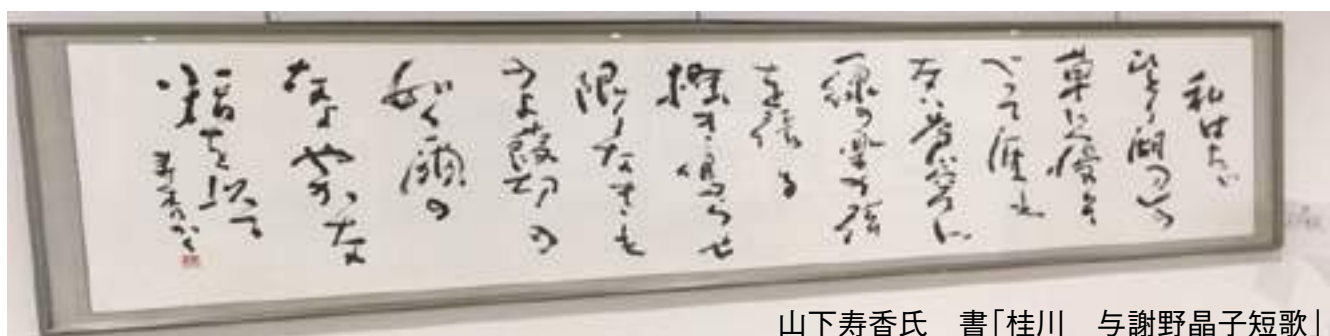
新型コロナウイルスの感染は今後どのようなようになって行くのか心配されますが、今回の展示によって今後も美術展は続けられると言う希望を持ったのです。



河内成幸氏 版画「宇宙の詩」
184×93cm



山口嘉民氏 洋画「桂川景」
F100



山下寿香氏 書「桂川 与謝野晶子短歌」
150×50cm



石原太流氏 書{漣椅^{れん い}}
173×70cm



水越幽峰氏 書「絆シリーズ3」
200×81cm



大神田礼子氏 洋画「銀河」
F120

対談

農事茫茫(五)

塚場長寿会 諸角 弘

お盆を明後日にひかえた夕暮れ近く、私が畑におりますと、買い物帰りの宮崎さんが立ち寄り、暑さがまだ残り、それに遠雷が鳴り始めたというのに、それらを忘れての百姓話となりました。

宮崎 コロナ禍のさ中、元気ですね。何の種蒔きしてたんですか。

私 家と畑の往復の毎日、必要不可欠の仕事をしているので、これこそ最良のコロナ対策——。今、小松菜を蒔きました。

宮崎 今はトマト・キュウリなど夏野菜が盛りの時期、小松菜とは珍しい。

私 わずか半畝です。春以来、繰り返し作っているのです。小松菜は非常に成長が速いので食べ頃を逸して食べることは少なく、ほとんど緑肥にするため作っているようなものです。

宮崎 先ほど、麦踏みのように足で蒔床を踏み固めていましたね。

私 あ、それは親父が「蒔床を踏み固めるとしつかり発芽する」と言っているのを踏襲しているのです。晩年の父は力仕事は私に任せて蒔蒔き専門、せっかちな私とは違い実に見事な捻り蒔きの名人芸で、その蒔床は足で踏み固めていたのです。それから農文協で出版の『野菜のビックリ教室』という下肥使用例などが書かれた古い本ですが、それには「フカフカ土に種を蒔く。蒔床を鎮圧すると毛管現象によって発芽に必要な水分が得られて理想的」ということが書か

れています。それですと蒔床鎮圧をしているのですが、確かに発芽にいいようです。

宮崎 そういえば、耕耘したフカフカ土の畑、草は人の足跡によく生えていますからね。ところで、この里芋、威勢が凄いですね。

私 里芋について、今年、私は思いが

けない経験をしました。この里芋の葉です。先ほどの『野菜のビックリ教室』。里芋のビックリ栽培について触れ、それには、里芋は肥料喰いだ、アブラムシ防止のため元肥は少な目にするが、追肥はケイフンなどを大胆に施し、座ブトン葉にしろ、そうすると子芋が育つとあります。私は今まで茎葉の徒長を警戒して化成、過リン酸石灰、



里芋の座ブトン葉

米ヌカなど施していました。本のとおり大胆にケイフンをやりました。すると茎はそのまま葉だけがグングン伸び、このような大きな葉になったのです。大きいのは長さ八十cm、幅五十五cmもあります。

宮崎 ほんと、座ブトンのように大きいですね。

私 葉は大きくなりましたが、さて、問題は子芋の出来具合——。

宮崎 このようにいろいろ試みられることは大切なことですよ。

私 真剣に試行に取り組んでいると思われそうですね、そうではなくて、その作物についての栽培法が確立してなくて、フラフラしているからなのです。九月にさっそく試し掘りしてみますので結果がはつきりますけれど。

宮崎 きつとよい芋ができていますでしょう。楽しみですね。

私 どうかなあ。ところでもう二つ驚いたことがあります。

宮崎 野菜作りで驚くことがさらにあるのですか。

私 実はインゲンのことです。私は毎年三月半ばに種蒔きしトンネルで育てています。そうしますと、エンドウに続いて休みなくインゲンを収穫することができるようです。今年も順調に成長しましたが、エンドウがボツボツ終る頃になっても、インゲンに花が一向につきません。充分に茎も伸び葉も繁っているのにとイライラしていたとき、まるで花咲爺さんが灰をまいて一斉に桜の花を咲かせたように、インゲン全体が花いっぱいになってしまいました。やがてサヤになって初めての収穫が一握りの〇・二kg、普通はしだいに収穫量が増加していくのに、五日目には一挙に二kgとなりこれにはびっくり仰天。急激に収穫量が増大したため収穫期間も短く、普通四十日は収穫が楽しめるのにわずか十六日間でおしまいになってしまいました。これにはほんとうに驚きました。

宮崎 面白い現象ですね。天候によるものだったのでしょうか。

私 天候ばかりではなさそうです。インゲンは成長の速い作物ですので早目の肥料を欲しがります。今年、トンネルを長くかけすぎて追肥も遅くなつてしまい、インゲンは肥料が待ち遠しく、それで成長が狂ってしまったのでしょう。もっと早く追肥をやるべきでした。仰天の一因はこれだと思っておりますけれど。

宮崎 なるほど、そういうことですか。

私 それからこのアスターですけど、午前中に収穫した残りなのですが、よろしかったらどうですか。お持ち帰り下さい。

宮崎 明後日からお盆、願ってもないことです。喜んで頂きます。

私 このアスター、長梅雨のお陰で大助かりしたのですよ。

宮崎 大助かり？ どういうことですか。

私 アスターの種蒔きときは葉桜の頃とされていますが、今年は三月中に桜が咲いてしまったので見当が狂い、結局、四月二十一日に蒔きました。苗は例年以上に順調に成育し、七月に入つてしばらくして開花が見られるようになりました。やや早目の開花で、このままだと七月中にすっかり咲き開き、お盆には出来過ぎるのではないかと心配になりました。ところが長梅雨のために花芽分化が鈍くなつて足止め状態となり、そのためお盆に頃合いの開花となりました。もし例年どおりの梅雨明けでしたら、カンカン照りで開花が進み老いぼれ花になつて駄目だったでしょう。それで長梅雨に助けられたというわけです。

宮崎 そうでしたか。おや、雷が大分近くなつたようですよ。

私 十里二十里先の遠雷ですよ。雨の心配はないでしょう。

宮崎 村上鬼城の句に「雷や猫かへり来る草の宿」があります。雷が頭上で鳴り響く前に、猫を見倣い、早々、退散することにいたしました。う。アスター、どうもありがとうございます。

私 (独り言)俳句をやっているだけにさすが句をうまく使うなあ。



アスター咲き始む

随筆

ミイラ取りがミイラになる

コモアシニアクラブ 田中醇治

ミイラ取りがミイラになるとはどういうことなんだろう。

十六〜十七世紀のヨーロッパでは、ミイラが一般的な薬として広く使われていた。そのため、ミイラを取ることを仕事とする者が増えたそうだ。ミイラを取るには古墳に潜ったり、砂漠の中を歩き廻ったりして、大変な危険を伴うことになる。そのため、ミイラを取りに行った人が遭難することもある。古墳の中に潜りこみ迷子になり、出られなくなりミイラになった人もいたかもしれない。一般にはミイラ取りに行き行方不明になった人たちを指して「ミイラ取りがミイラになる」という言葉が生まれたのだろう。

「ミイラ取りがミイラになる」という言葉は、現在の私たちの生活の中でも使われる。この場合の意味は、人を探しに行った者がそのまま帰って来ない。捜しに行った者が、捜される立場になってしまふ。また、説得に行った者が返って説得され、先方の人と同意見になってしまふなどに使われている。

江戸時代末期、土佐藩の坂本竜馬は幕府の要人、勝海舟に会見を求めた。この会見で竜馬は場合によっては海舟を暗殺しようと思っていたらしい。しかし、話しているうちに彼の世界観や、博学にすっかり同感して、彼のファンになってしまった。これなど、「ミイラ取りがミイラになる」のいい例と言っていだろうか。

エジプトで発掘されたミイラは、ヨーロッパで薬や顔料として売買された。また、体を包む布を開く「ミイラ開き」は人気の出し物だったそうだ。ミイラで一儲けしようとする商人の間で、ミイラ取引は盛んだったようだ。このミイラが、江戸時代の日本にも輸入されており、大名の間で人気だったという。

このミイラ、万能薬として良く効いたというから不思議だ。多分、ミイラを包んでいた布に塗られた、防腐剤が作用したのだろうとされている。後世になると松ヤニの沁み込んだミイラは、木の不足から工場や蒸気機関車の燃料として使われ、一般家庭でも包帯を燃やし調理の火に使われたという。

日本にもミイラはある。僧が土中の穴などに入って瞑想状態のまま絶命し、ミイラ化した物を「即身仏」と呼ぶ。日本では「即身仏」は人々から敬われ、尊敬されている。死者の冒涇など決して許されないことである。

いずれにしても、ミイラ取りがミイラにならぬよう気をつけたいものである。



恵林寺雑感

コモアシニアクラブ 中沢敦

「恵林寺」は甲州市塩山小屋敷に所在し、その山号を「乾徳山」と称し、武田信玄の墓もある。

恵林寺を最初に訪れたのは、七十三年前の終戦間もない昭和二十二年頃で四月十二日の「信玄さん」祭りの日と記憶している。

毎日の楽しみは夕方、ラジオにかじりつきドラマ「笛吹童子」を聞くのが唯一の楽しみ時代の時代に戦争で中断されていた「信玄公まつり」が再開され参道には露店がでると聞きおよんで、好奇心がむくむくと頭をもたげ、矢も楯もたまらなくなった。母親にセビツテ、やっと手に入れた僅かな小銭をしつかり握りしめ、伸び始めた麦畑の緑の春風を受けながら笛吹川に架かるガタガタする木造の八幡橋を渡り、約一里の道を恵林寺の参道に駆け付けた。そして境内に開かれています露店とは名ばかりの粗末な屋台をのぞき、「綿あめ」か「日光写真」か「ヨーヨー」にするか行きつ、戻りつ、迷い悩んだ。

恵林寺は戦時中に東京より学童疎開を受け入れ、およそ百五十人の同じ年代の学童が恵林寺本堂に入れられ生活をしたが、当然ながら



ら食糧はなく飢餓状態で飢えに苦しんでいる話をはるか昔に聞いたことを思い出す。当時、恵林寺山の松の太木は軍事用に切り倒し供出され、残された松からは松根油を搾り取り、境内の庭園も何も余すところなく野菜畑に代わっていた。

気候も現在とは違い甲州は寒冷地に分類され特に冬の寒さと強風は格別であった。

十一月初旬から吹き始める北風は日ごとに強くなり、翌二月頃まで連日唸りをあげて秩父連峰から吹き下ろす烈風はものすごく、電線を唸らせ、麦わら屋根の藁を引き抜いてゆく風は「甲州の空つ風」と言われ、県内外に広く知れ渡っていた。この時季、雨は少なく乾期でこの風を利用して甲州名物の「故露柿」が誕生したのである。

四月の声を聞くと甲州路も遅れてようやく春が始まり、四月三日は月遅れのひな祭り、十二日は恵林寺の武田信玄公命日の例祭「信玄さん」、十五日は一宮浅間神社の「おみゆきさん」(平安時代に朝廷が水防祈願を命じたのが始まりとされる例大祭「大神幸祭」が行われている、男衆が女性神を驚かせないように、女装してみこしを担ぐ伝統の祭り)そして二十九日は差し出の磯の「大嶽さん」と春祭りが続く、五月に入ると八十八夜前後から稲の苗代作りが始まり、養蚕を始める準備で家の「すす払い」と続き、十一月二十三日の「新嘗祭」の頃まで、農家は息つく暇もない土との長い戦いが始まる。戦後は九割以上が農家で、狭い山岳地を耕すために農民が背負い籠や背負子を背に這うようにして登って行く姿を、終戦直後の山梨を視察したGHQの調査官は、ピラミッド造成をしのぐ重労働だと驚嘆した話を思い出す。

恵林寺は臨済宗妙心寺派に所属して宗門の中に在っては「別格、

中本山」に位置しており、甲斐の国はもとより関東を代表する寺格を有してきた禅林である。

その開創は鎌倉時代も終に近い千三百三十年、甲斐の国、牧ノ荘領主で鎌倉幕府の御家人である二階堂道蘊が、かねてより親交のあった名僧夢窓礎石を招請して道蘊邸を提供、これを禅院に改めて一寺を興したのが恵林寺の始まりである。

開山・夢窓礎石（国師）は四歳の時に両親に連れられて伊勢より甲斐の地に来て、宝寿院等で修行を積み、やがて鎌倉時代末期から南北朝時代、室町時代にかけて仏教史、特に禅宗史はもとより日本の文化に大きく貢献した。

しかし、国師は自らを「煙霞の壁」と認めるように華やかな表舞台を逃れて山野に隠遁の生活を切望しながらも、その徳望の高さに周囲は許さず、時の後醍醐天皇や足利尊氏、弟の足利直義等激しく対立する双方から帰依を受け血なまぐさい権力闘争に翻弄されながらも仏教的な求道の道を説き続けた。国師は七十七年の生涯を終えるまでに七人の天皇、上皇から帰依され、夢窓・正覚・心宗・普濟・玄猷・仏統・大円と国師号を賜り、「七朝の帝師」と称えられている。しかし自らは「石立僧」と名乗り徒弟や職人たちと共に石を配し、流水をひき、樹木を植えて今日にのこる名園を作庭した。

特に京都嵐山の天竜寺や西芳寺（苔寺）は当時の状況をそのままに残し世界遺産として世界的にその評価は高い。

国師は自分の心情を次の句に表現している。

仁人自是愛山静 智者天然楽水清

莫怪愚憊翫山水 只因藉此砥精明

仁人はみずから山の静なるを愛す、智者は天然に水の清きを

楽しむ

怪しむなけれ愚憊（愚か者）の山水を翫ぶを、ただ、これを藉て精明を砥がんことを図るのみ

心を静める山の静寂、心を清らかにする清流の流れ・・・深山幽谷の自然を禅寺の庭に再現するのは、ひたすら自分の心を見つめ、磨き孤高の高みに導くためだと、一途に修行の道を歩みとうした国師の生き様を感じることが出来る。

その恵林寺庭園は、国の名勝指定で夢窓礎石の比較的初期の庭園と言われ、後に京都嵐山の天竜寺、西芳寺（苔寺）岐阜・永保寺等で完成を見るが恵林寺の庭園は夢窓流造園の原型とされ、作庭当時のおもかげを今日に伝えている。

庭園は、大本堂の裏手北側に展開しており遠望する奥秩父連峰と標高二千二十mの乾徳山を借景に取り入れている雄大な庭園である、しかし、現在は周囲の環境も変わり、また庭園内の木々も伸びすぎて乾徳山は遠望できない。

本来、禅宗寺院の庭園は鑑賞が目的ではなく、禅僧の生活修行を打ち込む禅林文化の結晶であると言われている。

恵林寺には夢窓国師の高徳を慕う求道の学僧は引きも切れなかった、足利尊氏も国師を



師と仰ぎ訪ねてきた、この後、尊氏は山梨市に清白寺を建立し夢窓国師を開山に自らを開基としている。現在国宝に指定されている。

夢窓国師の後は室町時代を代表する臨済禅の名僧、高僧が勅命を奉じて恵林寺に入山している。

そして恵林寺は快川かいせんじょうき紹喜と武田信玄の時代を迎える、快川は美濃崇福寺僧で若い時から俊才の誉れ高く美濃崇福寺住職を務め、京都花園の妙心寺本山に入寺、武田信玄の招きにより恵林寺の住職になるが、ふるさと美濃崇福寺の事情で一度は美濃にかえり崇福寺の住職を務める。永禄七年、信玄の度々の懇請により恵林寺の住職に就任する。

この時に、信玄は恵林寺を自らの廟所（菩提寺）に定め寺領も増加している。信玄は快川との親交を深めてゆく。

信玄が、その政治、外交、軍事などの面からも学問と信仰の深さからも、戦国武将として第一級人物であったことは、誰もが認めるところである。その信玄の人間形成に寄与したのは、快川国師を始めとする禅僧である。信玄は快川国師を心から慕い、快川もまた信玄を無二の道友とした。信玄は寸暇をさいて恵林寺に快川を訪ね、水魚の交わりは二十年に及ぶ。

「甲斐国志」には以下のような逸話がある。ある二月の末頃、上求寺の不動へ参詣した時、快川国師は使僧をたてて両袖に桜咲き初めた恵林寺庭の花見に席を設けて誘っている。

この時の信玄の詠歌は

「誘はすはくやしからまし桜花

さねこん頃は雪のふる寺」

「信玄は快川が桜の花見に誘ってくれたから花見を楽しむことが

出来たが、来なければ悔やまれたことである。しかし今度来るときには恵林寺は雪見の頃になるだろう」と詠じている。信玄の歌に快川が称賛して漢詩を作って応じている。（省略）

信玄を象徴するものの一つに「孫氏の旗」がある。いわゆる「風林火山の旗」と言われる武田軍の軍旗である。絹の紺地に金文字で、

疾はやきことかぜのごとく如風 徐しずかなることやしのごとく如林
侵しんりやくすることひのごとく掠如火 不動如山

この軍旗は快川の書によるもので、言葉は中国兵書孫氏を要約したものである。

この軍旗は現在、恵林寺と大菩薩麓の雲峰寺に保管されている。

そして、風林火山の軍旗が初めて用いられたのは、第一回川中島合戦の天文二十二年八月である。この軍旗は信玄の人となりを最も象徴的にとらえている、揮毫者に快川を選んだことはその厚遇と帰依を示して余りある。



武田晴信が出家して武田信玄と号したのは永禄二年（一五五九）三十九歳の時であるが、この時剃髪した毛髪を恵林寺の名王殿に安置してある不動明王像に塗り込めたと伝えられている。

ところで、信玄は武略より戦略に重きを置き、戦陣では刀を絶対抜かない主義で軍配を用いたという、総大将は戦陣で刀など抜いて

戦うものではないと快川が諭したからだといわれる。

こんなエピソードが伝えられている。

信玄はいかに悟った禅僧でも驚くだろうと、座っている快川にいきなり刀を抜いて鼻先一、二寸ところを切り下げた、ところが快川は「香炉上一点の雪、喝」と少しも動ぜず唱えたので信玄は刀を捨てて謝り、その不動心に驚いたという。そのとき快川は「人生というものは、香炉の火に点じた一片の雪のように、たちまち消えて跡形もなくなるものである。だから体に執着しすぎることもない。刀に意を介する必要もない」といったといわれる。

信玄は、元龜三年（一五七二）十月、精銳の甲州軍団を率いて甲斐を出発し京をめざして西上の途に就いた。眼前の倒さなければならぬ敵は信長であった。戦略家信玄は、反信長勢力を結集して包囲網を形成した、すなわち將軍足利義明、越前朝倉義景、近江の浅井長政、伊勢の北畠具教、大和の松永久秀、本願寺教団、延暦寺、円城寺等反信長勢力を結集して一気に信長を倒す大作戦であった。

途中、迎え撃つ信長家康連合軍と三方ヶ原で対峙し、これを一蹴した。信長は震え上がり陣を引き、家康は馬上で脱糞状態のまま清州城に転げるように逃げ帰ったのは歴史上有名である。

しかし、信玄は、この上洛戦の途次、突然病が再発し、甲斐に引き返す途中の天正元年（一五七三）四月十二日、信州駒場の陣中において五十三歳を一期に病没した。死に臨み「三年の間、喪を秘し、領国内の備えを堅固にして義卒を撫育せよ」とこまごまと遺言する。

秘喪が解かれた天正四年四月、勝頼は信玄の安骨葬儀と法要を営む、快川国師を大導師に、導師七人、僧侶三千人が回向する中、焼香する人万余を超えるという大葬儀が恵林寺で執り行われた「天正

玄公事法語」（山梨県指定文化財、恵林寺蔵）は信玄葬儀の記述に詳しいが、葬儀は七日七夜に及んだと伝えている。こうして信玄はようやく恵林寺に葬られた。その戒名は、

恵林寺殿機山玄公大居士

そして、十年の歳月がすぎ、恵林寺炎上の時が迫ってくる。

天正十年二月、信長は、麾下全軍に甲斐の国進攻を命じる。家康も浜松を、氏政も小田原を出発したのである。そして、勝頼は三月十一日、天目山下の田野に於いて勝頼と夫人、信勝は自決して果てた。名門武田氏は此処に終焉したのである。

信長は武田の遺臣の掃討をおこない、特に江州浪人佐々木承禎（しょうてい）一行が足利將軍義昭から信長追討の密使として甲斐に入国、甲斐国内に蟄居していたが今度の騒乱で頼るところもなく、恵林寺に逃げ込み快川国師に憐れみを求めた。信長はこの事実を知り、佐々木承禎の引き渡しを要求するが快川は拒否した。「甲斐国志」などによると恵林寺が焼かれた直接の原因は乱を避けて隠れていた佐々木承禎らを快川国師が密かに逃れさせたことにある。

しかし快川は恵林寺の存在とともに、武田氏を通して反信長の精神的な象徴となっていた。甲斐府内の禅僧も戦乱から逃れて恵林寺に参集していたのである。そして「国はすでに奪われ外護も亡んでしまった。何の面目があつて他人にまみえられようか」と相談したと伝えられる。

信長は同じ美濃出身の高僧快川国師に会見を求めた。信長の会見の申し出を快川は拒否し、更に恵林寺に立ち入を断った。権力も武力も眼中にない快川であった。敢然と信長に立ち向かったのである。

信長は恵林寺と快川国師の処分を命じ、恵林寺僧衆御成敗奉行を

設けている。単に反抗するから焼くという場当たりのなものではなかった。

「信長公記」は次のように記している。

去るほどに、今度恵林寺に於いて佐々木次郎、隠し置きについて（中略）当奉行衆を、を罷り越させ寺、寺中、老若を残さず山門へ呼び上らせ、廊門より山門へ籠草を積みませ、火を付けられ候、初めは黒煙立つて、見えわからず、次第、次第に煙納まり、焼き上がり、人の形、見ゆる処に快川長老は、ちとも騒がず、座に直りたるまま動かず、其の外の老若、児、若衆、躍り上がり飛びあがり、互いに抱き付き、もだえ焦がれ、焦熱大焦熱の炎にむせび、火血刀の苦を悲しむ有様、目も当られず、長老分十一人、果てられ候。其中、存知の分、宝泉寺の雪峰長老、東光寺の藍田長老、高山これ長禪寺の長老、大覚和尚長老、快川長老。是は隠れなき覚えの僧なり。これに依つて去年、内裏にて、忝くも円常国師と御補任頂戴申され、近代国師号を賜る事、規模なり。都鄙の面目、これに過るべからず。四月三日、恵林寺破滅。老若上下百五十余人、焼き殺されおわぬ。

とある。

快川は山門楼上で炎に包まれながら、最後の説法問答をし、遺偈を唱えた。

快川、唱えて曰く「安禪は必ずしも山水を須いず、心頭滅却すれば火も自ずから涼し」と。自ら火定三昧に投入した。

名利、恵林寺は此処に全て灰燼に帰するのである。

恵林寺三門のかたわらに

「天正亡諸大和尚諸位禪師安骨場」

と刻まれた安骨碑と、三門の礎石が往時を偲ばせる。

そして、三か月後信長も本能寺と共に炎の中に消えて行くのである。

現在の三門は江戸時代恵林寺山の鐘樓門を移築したものである。

油絵との出会いと現在

コモアシニアクラブ 森田 榮治

私が油絵と出会ったのは二十九歳の時です。独身の私は四年位横須賀の荒崎海岸に住んでいました。この家は道路を挟んで海岸になっており、観光客が多い場所です。

ある日、二階の窓から海岸を見下ろすと数名の男女が油絵を描いているのが目に入りました。春日和の中、のんびりとした光景を目にして「油絵を描いてみたいな」と思ったのが切っ掛けです。

二八歳の時、横浜から愛川町に移り住み、本厚木駅前の「厚木カルチャーセンター」で油絵を習うことにしたのです。

初日の体験は衝撃的でした。受付の男性から「いいときに来たね、今日はヌードだよ、狙って来たの」と冗談交じりに言われ、何のことやら分からず教室に入ったのです。

生徒さんが七人位で着物姿の若い女性のモデルさんを囲んでいました。先生から「クロッキーの時間は最初は五分、次は三分で描きます。」との説明を受けました。

私はクロッキーが何かも分からないまま開始時間のベルが鳴ると、その女性は着物を脱いで全裸になり、椅子に座ってポーズを取りました。

すると全員が一斉にスケッチブックに裸の女性を描き始めました。

私は女性の全裸を目前に見て固唾を飲んで眺めながら一向に鉛筆が進みませんでした。自分の描いた何枚かの滑稽な裸婦を見る度に女性の曲線美を描く難しさを初めて体験したのです。

その後三年位教室に通いましたが、仕事が忙しくなり、油絵を描く気持ちの余裕がなく断念しました。しかし絵を描きたい気持ちは消えず、たまの休日にはスケッチブックと水彩絵具を持って、近場の川の風景や草花を描いていました。

四十九歳の時、厚木からコモアしおつに移り住み、たまたま八王子のデパートで「宙の会」という油絵展を鑑賞したのです。

受付の女性から「これは上野原で私が教えている油絵教室の作品展ですよ。」と言われ、この作品展との出会いが奇しくも油絵を再開するご縁となり入会したのです。

教室の先生は日本芸術年鑑社の（芸術界）に掲載される高橋朝先生と英吉先生のご夫婦でした。『この芸術界の本には洋画家の森田茂画伯等著名な画家が掲載される本ですが、掲載年度の数冊を上野原市立図書館に寄贈されています。』また高橋英吉先生は日本の風景画展で数々の受賞をされている巨



匠だったのです。

私が約十五年通った教室での思い出は、都民美術展（都展）の五十号作品入選です。東京都美術館等の展示で三回入選し、準会員に推挙されたことです。

これは偏に両先生のご指導の賜物と感謝しています。

現在「上彩会展」「りんどうの里展」に参加させて頂いています。また北久里浜での「たんぽぽの会の展示会」、来年の「高齢者作品展」の出品に向け描いています。

昨年コモア在住の画家の方から「イーゼル付き絵具箱」を頂き、それを我が家の小さなアトリエと称し、重宝して使わせて頂いています。

新型コロナから学べべき事は

沢松親和会 小 俣 庄 三

二月頃から新型コロナの感染が急に世界的規模にまで拡大しています。

十月一日現在で国内での感染確認例八三、八〇八人、死者一、五七五人、世界の感染者三三、六五二、九六〇人、死者一、〇〇七、九二二人と驚異的な数字に昇っており、もはや既存の秩序を破壊した感で人々の生活の座も根本的に問われる事態に至っています。

こんな時、衝撃的な一つの詩が「無教会」誌に掲載されていましたのでここに紹介します。

コロナウイルスから人類への手紙

受取人…ヴィヴィアン・リーチ

地球は囁きました、

でもあなたは耳を貸さなかった

地球は話しました、

でもあなたは聞かなかった

地球は叫びました、

でもあなたは耳を塞いだ

そして、私は生まれました・・・

私はあなたを罰するために

生まれたのではありません・・・

私はあなたの目を覚ますために

生まれたのです・・・

地球は助けを求めて叫びました・・・

大洪水、でもあなたは聞かなかった

燃え盛る火事、

でもあなたは聞かなかった

猛烈なハリケーン、

でもあなたは聞かなかった

恐ろしい竜巻、

でもあなたは聞かなかった

汚染した水により海の生き物が死んで行く

警鐘を鳴らして冰山は溶けて行く、

厳しい干ばつ、

そんな時、あなたは地球の声を聞こうとはしなかった

地球がどれほど悲観的な危機にさらされている

あなたは聞こうとしなかった

終わりのない戦争

終わりのない貧欲さ

あなたはただ、自分の生活を続けていた

どれだけの憎しみがそこにあると

毎日何人が殺されようと

地球があなたに話そうとしていることを

心配するより

最新のPhoneを持つことの方が大切だった

でも今、私はここにいます

そして、私は世界の軌道を止めました

ついにあなたに耳を傾けさせました

私はあなたに避難を余儀なくさせました

私はあなたに物質的な考えをやめさせました・・・

今、あなたは地球のようになっています

あなたは自分が生き残ることだけを考えています

どう感じますか？

地球が火事で燃えているように

私はあなたに熱を与えました

汚染された地球の空気・・・

私はあなたに呼吸への課題を与えました

地球が毎日弱って行くように、

私はあなたに弱さを与えました

私はあなたから快適さを取り除きました

あなたの外出

あなたから地球とその痛みを忘れさせるために使う物

そして私は世界を止めました

そして今・・・

中国の空気はきれいになり・・・

工場は汚染を地球の空気に吐き出さなくなり

空は澄み切った青色に

ベニスの水は透明になり

イルカを見ることが出来ます。

なぜなら水を汚していた

ゴンドラを使っていなかったから

あなたには自分の人生で大切なものは何かを考える時間が出来ました

もう一度言います、

私はあなたを罰しているではありません・・

私はあなたを目覚めさせるためにここにいるのです

これが全て終わったら私は去ります・・

どうか

これからの瞬間を覚えておいてください

地球の声を聞いてください

あなたの魂の声を聞いてください

地球を汚さないでください

争うことをやめてください

物質的なことに気を取られないでください

そして、

あなたの隣人を愛し始めてください

地球とその生き物たちを

大切に始めてください

何故なら、この次、

私はもっとと強力になって帰って来るかもしれないから・・・

コロナ・ウィルスより

この詩を紹介して下さったり、また現代人の奢りや見当ちがいを改めるよう指摘して下さったのは、自由が丘聖書集会・上智大学教員であられる木村護郎クリストフ氏である。

氏は、今回のコロナ禍が人間社会につきつけたさまざまな問いの中で最も根源的な問いは、人間は「地球の主人なのか」で間違いないだろうと指摘している。人間、特に「先進国」と言われる国々の人々は、地球を自分達の思い通りにするのは自分達の当然の権利であると見做してきた。その「当たり前」に待ったがかかった、というのが今回の事態である。

これまでの支配者感覚が見当違いではなかったのかと問うことが問われていると指摘する。

もう一つは、英語の原文から欠落している一文（創造主がいることを信じるようになってください）が欠落していたのだ。

日本語訳した人達は、この最後の呼びかけの意味が分からなかったのか削除してしまった。しかし、この手紙の作者（ウィルス？）が最終的に言いたかった事はこの事だったのだ。日本語訳におけるこの文の欠落は、はからずも現代人の欠落を如実に表している。

創造主を信じると言う事は、自分達がこの世の主人であると言う、現代人にとつてあまりにも自明な自己理解を捨てると言うことである。すぐには受け入れがたい世界観の根本的な転換をうながすこの一文と向き合うことによって始めて、自分を中心に世界が周っているという幻想から目覚めてこの世の現実と向き合えるのであると、氏は言う。

実際には、現実と向き合うどころか、幻想にしがみつ়く傾向がみられる。

コロナ後、経済の失速や社会の停滞を取り戻すために、より多くの人やモノの移動が促進されコロナ以前に見られた環境破壊がむしろ一層強化され、あらわになった格差が放置されるとしたら、コロナ後の方が恐ろしい。

そうならないためには、現代人の思い上がりの根底にある自己中心主義から問い直さなければならぬと、氏は警告している。

私達一人ひとりが真剣に考えて行かなければならない事と思う。

コロナ対応は社会の優しさで

沢松親和会 小俣 キヌ子

私は更生保護女性会のボランティアの活動をさせて頂いております。

毎年の総会にはご来賓として市長さん始め多くの方々から種々貴いお言葉を頂戴しております。

その中でも随分前になりますが諸角弘元助役さんから頂いたお言葉が、今のコロナ禍で特に必要ではないかと思っております。

そのお言葉は、「社会の優しさ」でした。その上で女性会を励まして下さいました。

昨今テレビ、新聞等の報道でコロナに感染した方や、そのご家族に対し差別や、いやがらせが多く寄せられている事を知りました。こんな時こそ諸角元助役さんの教えを生かす時、「うがい」「マスク」「手洗い」と同時に自分の事だけでなく他人を思いやる事で、私達一人ひとりが持つ優しさをまとめ一丸となってウイルスに対抗

しなければならないと私は考え、これが「社会の優しさ」ではないかと思っております。

今、市では「広報」で、市議会では「議会だより」で、市社協では「社協だより」で、それぞれの立場から「社会の優しさ」を伝えておられます。

その中で議会だより「No.六十二号」には長田クリニックス院長先生の記事がございました。その中で先生は、今私達に出来る事は自分を守り、他人を思いやる行動として、手洗い、うがい、マスクの着用を呼びかけておられました。あたり前のことをやりましょうの教えかと思えます。この教えも社会の優しさの一つだと思います。

私達はいろいろな先生方の教えに従い、市社会福祉協議会の基本理念にありますように「みんながあいを育てるうえのほら」の理念を生かし愛を育くみ個々人が持つ優しさを涵養し、社会の優しさを結集してこれを生かし、強靱なコロナを追い払いましょう。

自作漢詩「佳人」と「甲州街道」

島田桂生会 井 本 克 二

高校時代から中国文化にあこがれ、「十八史略」「三国志」などの歴史書や文学書に親しんできました。一昨年は衛星放送で中国歴史ドラマ「三国志―司馬懿（しばい）軍師連盟―」を見ましたし、今年は「開封府―北宋を包む青い天」を連日見えています。高校教員だった時には中国研究部を創設して、その後住むようになった湖南団地の現在の家で何度か夏の合宿しました。そのころはまだ簡易

水道しかなかったので、断水した時には生徒を動員して給水車から水運びをしたこともあります。

唐の時代の豪快な李白ではなく、繊細な杜甫の詩に共感する私は、鈴木虎雄著「杜詩」岩波文庫で杜甫の詩の総数は一、四七二首とするのを確かめようとして、清の時代の三人の主要な学者の著書「錢益箋」「錢注杜詩」(二、四七二首とする)、仇兆鰲「杜詩詳注」(二、四三九首とする)、浦起龍「讀杜心解」(一、四五八首とする)の漢詩をすべて数え上げそれぞれに含まれていた他人の作品を除いたところ、三者とも一、四五七首で一致することが判明しました。

その後、細々と詩作を続けましたが、上野原に来て作った二つの漢詩を紹介します。一つは湖南団地の自然を背景に、杜甫の「佳人」五言古詩(二十四行)をまねした五言律詩(八行)です。

佳人 美しい人

深山秘姣女 深山は姣女を秘し 奥山に美しい人が隠れ

鳥囀胡蝶捷 鳥囀り胡蝶素早し 小鳥と蝶とたわむれる

湧水湖南下 湧水は湖南に下り 湧水は湖南団地を下り

河床新畝接 河床の新田に接す 桂川の新田へと流れる

高雲峰頂翳 高雲に峰頂は翳り 金剛山は白雲に包まれ

烈風緑溪渉 烈風は緑溪を渉る 烈風は沢入川をくだる

幽處夕陽照 幽處を夕陽照らし 独り住居を夕陽照らし

佳人竹柏囀 佳人に竹柏は囀く 樹々は密かにささやく

五言律詩(葉韻) 読み下し文 意識

二〇二〇年五月作



二作目はあまり上品ではない作品です。この年、私は甲府の山梨英和大学で開催された山梨分区信徒大会で、開会礼拝の聖書メッセージをすることになっていました。教会員八名が二台の乗用車に分乗して甲州街道を走りました。私は島田桂生会の一泊旅行でも貸

し切りバスで走っているうちに、サービスエリアでまっさきに駆け込むほどトイレが近いのです。この日も国道二十号を走って甲府市内に入りましたが、我慢ができず量販店が目に入ったので緊急に停車してもらいました。ところがまだ開店前でしたので店内に入れません。仕方なく駐車場の奥で済まそうとしたところ、出勤してきた店員に見つかり「おっさん、何してるの？」と追及されました。あわてて店の裏に回ったところ、その店員は先回りしていました。私は「年寄りだから勘弁してくれ」と泣きを入れ早々に車に逃げもどったのです。けれども、そこは私もプロ。開会礼拝では堂々と任務を果たしました。けれども家に帰ってから悔しさと恥ずかしさがつのり、そのうつぷんを晴らそうと、この漢詩を作ったのでした。

甲州街道

長路 不堪 野水 辺 車に乗っているうちに

断猿 鶴 唳 恨 綿 綿 遂にたまらず途中下車

秋 雲 泛 泛 誰 能 識 物陰探してうろうろと

遊 子 淒 涼 私 自 憐 どこでできるか立ち：

七言絶句 (先韻) (二〇一四年十一月作)

コロナに負けない人間の知恵

島田桂生会 碓 井 恆 夫

全世界を覆っている新型コロナウイルス！日本でも今年初めから感染が広がり、未だに衰えを見せていません。今やどこに行っても「手洗い、アルコール消毒、マスク着用、密を避ける、声は控えめ」が日常生活の中心になっています。会合やイベントも自粛というので、何も出来ない日々を過ごしています。

私も色々企画させて頂いた島田公民館の「ふれあいウォーキング」が今年は中止になってしまいました。島田の皆さんが四十人ほど参加し、山梨県の「良いとこ探し」をしながら和気あいあいとふれあってきた行事が出来なくなったことはとても残念です。

それでも地域を歩いていると、時々夫婦や二、三人の友達と密にならないよう気をつけて散歩やハイキングをしている方々に会います。コロナに負けないやり方で和をつくり体を動かしている姿を見るたびに、こういう形で「ふれあいウォーキング」を続けてくれているんだと嬉しくなります。

「生き生きサロン」も今年は今のところ出来ません。でも近所の方と広い野原で一緒に畑をしたり花作りをしている姿に出会うと、コロナ禍でもふれあいやおつきあいが続いているんだと嬉しくなります。「銀なん取りはくさいから」と何年もやっていなかった私の近所の方々も声を掛け合い銀なん取りを再開しています。くさくさない方法を教え合いながら、「和やかなふれあい」が来ています。笹竹や雑草に埋もれた野原を刈り取って平らにし、丸太の椅子を

おき、「見晴台」を作っている人達もいます。少しの労力で気持ち
がスカーつとする場所ができたと汗をぬぐっている姿に感動しまし
た。彼らは自然に生えている野の花を植え、自分の家の花壇の花を
持ち寄って楽しみながら居場所づくりに燃えていました。春にはア
ザミ・タンポポ、夏にはあじさい・百日草・なでしこ、秋にはコス
モス・彼岸花と、一年中花が咲いている上野原を望める場所にし
たと燃えていました。

新型コロナ感染で今までの日常が大
分奪われてしまいました。家族や近
所の方々、お友達と知恵を出し合いな
がら新しいふれあいの場が生まれてい
ます。コロナで大きなダメージを受け
ても人間の小さな知恵の積み重ねで大
きな未来が開けてきているのだと思
うと力強く生きていく力が湧いて来たよ
うに思えます。



湖南見晴台から上野原をのぞむ

「川と河」

西原なかよし会 長 田 助 成

正しい言葉は知らないが「河を制する者、国を制する」という言
葉を思い出したが、平成三年八月三日頃、名古屋近くに上陸し東北
に抜けた台風があった。私は自分の庭に二十センチくらいの深さの
バケツを置いてみた。

前日から二日間で三回雨水を撒けた。特に現権山を中心に大月七
保町浅川と上野原町西原に多量の雨が降った。夜九時頃から集落の
中心地鶴川と初戸川が合流する近くにある消防庫の詰所に団員二人
で待機の体制で暗闇に降り続く雨音を聞いていた。

十時前後、初戸川の上流の空に稲妻が走り益々その降り方は異常
になって来た。しばらくして普段は小さな流れの小川の水位が上が
り始め、土の臭いがするようになり川の流れはトロロに醬油をかけ
て混ぜたようなドロドロした流れに変わり三m位の滝があるところ
もまるでわからないようにスベリ台を流れ落ちてゆくかのような状
態になった。直径二十センチ長さ二十メートル位の杉の木が根株の
ついたまま流れてくる。川から五メートルのところには鉄骨で上げ
た集会所がありその鉄骨の柱に石の当たるカチンカチンと音がしだ
した。土砂が川底を上げ濁流が走っている。

消防庫の横に橋がありこれに流木がひっかかりダムのようになっ
たら一気に両側四軒の家は危ない。「オイ！そうなたら逃げる
ぞ！」「ワカッタ！」二人で顔を見合わせた。消防庫の前に木造の
ゴミ集積箱がある。その箱の下からナメクジがいっぱい出て来て箱
を上へ上へと上っている。流木は不思議にどこにもひっかかりずス
ルスルと流れ下る。一時間ほどして雨も小降りとなった。水位も下
がり始め日付が変わる頃自宅に帰った。

次の日台風一過の中を初戸川の上流へ上った。いたる所から水が
吹き出ている五百メートル上流の左側にプリンをスプーンですくい
取ったように土砂崩れの痕があった。ここから土と木が流れて来た
のだ。西原全体が見渡せる中群山に登って尾名手川、阿寺沢川を見
た。小さな土砂崩れの跡が数十ヶ所も確認出来た。

私の家の前の川の真ん中に五メートル直径の石がある。大石と言われているその石が一週間も顔を出さない。「流れてしまったか？」と言う者もいた。台風など一日で二百ミリ位降ると流れの中に埋もれるが雨が止んで一日で出てくるのが普通だ。その時は全く違った。それは上流からの土砂が堆積して水位をあげたせいだった。今、西原地域の沢や支流には全て堰堤があり土砂を留めている。

令和元年、台風で大きな河などで氾濫が起きて大変な被害が出てしまった。山間地域を流れる川は急流のため砂も石も流れ下るが広い果樹地帯や畑、人家がある平地を流れる河は石砂が堆積しその上を流れることになる。水位が上がりが氾濫が起きる。上流域には砂防ダム、その下には流木や水を止める大きめのダムが必要だ。農業用水、工業用水、発電に使えるダムが日本の地形には一番適していると考えている。

四十年前、研修旅行で浅間山の麓をバスで走っていた際「日本各地の大きな都市に流れ込んでいる河には最低一ヶのダムを造るべきで飲用水の確保と発電所を造り、釣りなどはその次だと思う」皆と話し車内は一時間ほどその話しで持ち切り長野のりんご園に着いたことがあった。

ダムは造るのにお金がかかると「脱ダム」を言う人もいるが放射能を出し続けたり、もしもの時、人が住めないような土地を造るより水力による利用を考えるべきだとこの頃やたら思う。この事は前々から事あるごとに話していた。

ただ問題なのは堰堤を造った土地を国からの指示で土砂流失防備保安林となり木を伐採することを禁じられ収入が無くなることである。これが木は農林省で管理、川は国交省であることの弊害がさせ

ることである。

砂防ダムの施設が出来にくいことになり、ダムが流木、土砂で埋まっても道が造れないので搬出が不可能になる。何とか出来ないものか。

追記 令和二年七月二十七日午後一時NHK甲府へ電話。

令和二年十月十四日朝七時半この件で取材放送される。

新型コロナ禍

一人暮らし高齢者のフレイルについて

本三ほかか会 石田 義愛

新型コロナウイルス感染の不安と、高齢者は重症化のリスクが高いといわれることに駆られ、自宅に籠りきりの生活になり、日課の散歩や買い物、友人との接触も自粛している高齢者の方も多いのではないのでしょうか。そうした過度な行動制限は、フレイルを招く可能性があります。

フレイルとは「虚弱状態」を意味し、健康な状態から要介護へ移行する中間の段階をさし、身体機能の低下だけでなく、うつ病などの精神面や、認知機能の低下にも影響を及ぼすと、日本老年医学会が提唱した概念です。

フレイルは本来、新型コロナウイルスと直接関係のない概念です。しかし自宅に籠りきりという生活が長期化すると活動量が低下し、筋力も衰えて疲れやすくなります。その結果、さらに活動量が低下するという負のスパイラルに陥ることになります。活動量が低下すると空腹になりづらく、食事や水分摂取も減り、低栄養状態を招くこともあります。こうした身体機能の低下は行動意欲や、認知

機能の低下にも繋がると言われています。何もする気が起きず、ベッドで横になる時間が増えることは、要介護状態に近づくことを意味します。

少しでもフレイルを予防するために、自宅でできる運動をしたり、感染に十分注意してできるだけ人ごみを避けて、外出することでも大事だと思います。自宅では、テレビをみながらでもストレッチをしたり、ラジオ体操やスクワットをしたり、感染予防に気をつけながら、すいている時間帯に買い物に出かけたり、公園など開放的な場所での散歩や、軽い運動をしたりすることも大事だと思います。又、低栄養を防ぐために普段の食事にタンパク質を多く含む、肉や魚を積極的に摂ることは、筋力の維持にも繋がります。

孤独を防ぎ、社会性を保つことも大事なことです。外出機会が失われると社会の繋がりが希薄になり、こうした状態が続くと意欲の低下など、精神面にも影響します。

私も七十八歳で一人暮らしをしています。今迄活動していましたがボランティアや会合、サロンその他、二日に一日は出かけていましたが今は全くなり外出しない日や、誰とも会話のない日が三・四日続くことも日常的になって半年以上も続いています。このような状況の日々が続くと精神的に不安定になり、それに伴い体調もすぐれなくなります。四年間の母親の介護以外に、コロナ禍まではそのような事は経験したことはありませんでした。

収束の見通しが立たない新型コロナウイルスですが、今必要なのは感染の拡大を防ぎながら、一人暮らしの高齢者に対する、心身共に健康的な毎日が過ごせるよう、先ずはできることから始める、地域や周囲の思いやりを持って支え合うことかもしれません。

コロナ禍での書道

田町寿クラブ 水越 久

新型コロナウイルスの感染拡大により、不安な世情が続いています。芸術・文化の面においても中止・延期が相次ぎ、また活動範囲も狭められ物足りなさを感じた一年でした。

このような状況でも私の所属する全日本書芸文化院においては、毎月「全書芸」という競書誌を発行し、全国一万名以上の方々にお届けしています。令和二年度、私はその編集長として多くの先生方と会議を重ね、原稿の校正を行い、今年度三月号まで滞りなく発行できる段取りをつけたところです。

第七十回全国書道コンクールが実施され、私の教室からも、小学一年生から高校生までの学生部に多くの方が出品しました。審査結果が届きびっくり。日頃、一生懸命練習した努力が実ったのです。なんと中学二年生と小学五年生が二人とも優秀大賞に、中学一年生が優秀賞第一席に輝きました。長年、書道を教えていますが、同時に三名も素晴らしい賞を頂くこととなって驚愕してしまいました。

十二月十三日、東京一ツ橋の如水会館において授賞式が挙行されました。一人ずつ名前を呼ばれ、緊張した面持ちで前に進み大きなカップと賞状がそれぞれの手に。大きな拍手とともに、緊張から解放され安堵した嬉しそうな笑顔が印象的でした。三人の優秀作品は、国立新美術館に展示され多くの人に観ていただきました。

第四十九回「全書芸展」が、十二月十日から二十一日まで国立新美術館で開催され、山梨県から九名の方が出品しました。私は縦三

全書芸展出品作



コンクール受賞作品



メートル、横九十センチの額に「道無窮」の三文字を行書体で揮毫し出品。「道はむきゆうなり」と読み、道は極まりがない、という意味でしょう。書の道も人の道もまだまだ……。今の私にぴったりの言葉です。

令和三年は聖徳太子御遠忌（没後）一四〇〇年の記念すべき年にあたるそうで、奈良県を中心に「聖徳太子プロジェクト」のイベントが行われます。その中の一つとして、六月に令和を代表するジャパンアーティストの御神酒ラベル作品を冠した、「聖徳太子一四〇〇年御遠忌記念奈良・信貴山御神酒奉納永久収蔵展」が開催されます。令和二年九月にラベル作品の依頼があり、語句は自由とのことなので、私は六月開催にちなみ、光り輝く露を意とする「露華」の二字を、謹んで揮毫し奉納しました。

思い出は経験、体験である

小沢寿会・森川耀雄（明雄）

「中国満州浪漫紀行と父の第二次世界大戦従軍記録の思い出」

ある新聞記者が思い出は経験とか体験の多寡によつて異る、と言っていたことがある。たしかに私も永い間、文箱にしまつておいた記録をとり出し思い出を書く気になりました。父母が戦争中に残しておいた軍事郵便は、満州からインドのインパール作戦に従軍した、約六年間強のハガキと郵便封書まで併せて約三百通強もありました。それを集録し父の第二次世界大戦従軍集録として書きとめてありました。そんな折、東京の旅行社が企画した「中国満州浪漫の旅」と出会いがありました。軍事郵便によりまると昭和十六年六月（一九四一年）曰米協議が破綻し戦争気運が高まつてきた時、父の元に召集令状が届き、直ちに赤羽の近衛連隊へ入隊しました。軍事郵便によれば九月には佐世保港から輸送船で大連に渡り、関東軍が造った満州鉄道の貨車に乗つてハルピンの先、チャムスと露満国境の虎林まで行き、半歳ほど駐留したとあります。これからの足跡を追つて私の満州旅行が始まります。なおビルマ戦線も訪問したかったのですが、この頃は軍政の



ハルピン駅のホームにて

時代で入国許可がおりず残念でした。

平成某年十月一日、全日空九〇三便定刻に成田空港を出発する。鳥取上空から釜山、ソウルと煙台^{えんたい}を^へて、大連に十四時四十分到着する。大連空港には大連東北旅行社のガイド、孫志勝さんが出迎えてくれた。彼の案内で早速大連市内へ、そしてバスで旅順^{りょじゅん}の水師営へ行き日露戦争の会見場を見学する。そのまま激戦地だった二〇三高地へ行きました。当時は車もない時代に乃木將軍は大軍を引きいてよくぞ此処まで来たものだ^{かんたん}と感嘆するとともに日本人の根性に敬意を表さざるをえませんでした。今では多少の樹木が植えられてましたが最近までは全くの裸山だったそうです。

ロシア軍の機関銃で壱万六千人もの日本兵を失ったというのもうなづけます。明治時代そのままの東鶏冠山^{けいかんざん}の爆破された土造作りのロシア軍のトーチカや兵舎、当時をしのぶが如く建っていました。翌二日目には大連から西北航空でハルピンまで空路を二時間三十分近くかけて満州平野をひとつ飛び、さすがに広大の一言につきます。ハルピンでは早速、スターリン広場や広々とした松花江の船くんだり等をしました。が十月というのに最低気温マイナス二度、最高九度に驚きました。

続いてバスで数キロ先にある元七三一部隊の記念館である遺跡（石井四郎部隊長^{さいしん}）を見学する。関東軍が細菌研究所として満州人を人体実験した所で、その内容を見たら恐ろしい限りで



旅順 203高地にて

逃げだしたくなりました。無惨限りないものです。ハルピンの町なみはロシア風の建造物や日本人が建てた人民政府の庁舎がそのままで道行く人の顔もロシア系の人が大分居りました。十月四日長春へ列車で出発、朝七時というのに休日のためか駅頭や列車は大変な混雑ぶりでした。三十両編成の列車をジーゼル機関車が引く丹東行き、最終車両で軌道をみていると何処まで続くのか直線で、さすがに大満州を感じさせます。夕方に見る地平線には真赤な太陽が。その昔、軍歌にあった「ここはお国を何百里、はなれて遠き満州の、赤い夕陽に照らされて、友は野末の石の下」そんな事を思いうかべながら長春へ着きました。（注）長春は省略!!十月五日列車で瀋陽へ出発する。クリークや広大な畑、山村を見ながら十二時過ぎに瀋陽北駅（旧奉天）に着く。出迎えてくれたのは海外旅遊社総公司の劉鉄昌^{りゅうていしょう}さんでした。

此処は東北地方最大の都市だけあって街並みは明るくて大きい。しかし冬は最低マイナス二十度にもなり雪も二百㎜は降るそうです。最速清朝時代の偽故宮を拝観する。規模は北京の故宮と違ってかなり小規模でしたがそれでも三〇四代の故宮だけあって広いものでした。翌五日目撫順炭鉱へ、高速道路を走ること二時間程かかりましたが東洋一の露天堀りの炭鉱を高い所から一望しました。上野原の旧町をのみこむ程の広さです。続いて水溪市^{すいけい}の鐘乳洞の見学にゆく。奥行き5kmもあり、小舟に乗って約3km位まで見学、天井は高く東洋一と云われていました。午后列車で大連に向う。ホテルは香格里拉酒店で玄関へ入ると大理石ばかりでそれはそれは立派なものでした。ホテルのチップは運搬代等で五元（日本円七五円）支払うのが常識でした。

続いて父の第二次大戦従軍記を書きますが、思いおこせば一九四一年昭和十六年十二月、宣戦布告すると同時に部隊は大連から輸送船で南方へ向け出達しています。此処から部隊名もビルマ派遣第五八八五部隊となり、黄海から東支那海、台湾沖を経てマレー半島のコタバルに上陸しています。

翌昭和十七年二月には日本軍はシンガポール作戦を強行し占領しました。その時野戦病院で軍医と二人で酒を飲みながら花火のような砲弾を見ていると後方から「諸君第一線は戦斗中でありまず」と一喝していった将軍がいました。かの有名を覇した牟田口連隊長だったそうです。

やがて部隊はマレーを北上しタイのバンコックに入り、此処で数カ月駐留しています。この時偶然にも小学校時代の竹馬の友であつた、新井に在住していた桐林成美さんと逢っています。彼は野戦郵便局長で尉官クラスでしたが身分の関係なくひと晩酒食を友にしてなつかしい想い出を語り合つたと云つてます。（写真付きのハガキが届いています）その後ビルマに入り、はじめてラングーン攻略戦が実施されました。

部隊はペグーという地方都市に野営していますが、やがてピンマナまで進軍し、ここで時事新報社の従軍記者が父と地元の子供たちの写真を撮つてくれています。やがて部隊はバカンまで進み、かのマンダレ作戦に参戦しています。此処で忘れられ



昭和16年11月 北満佳木斯にて

ないのは、後方から甲府の部隊がくるという情報がいり、到着した中隊長にお願いして上野原の兵隊が居たら会いたいと申したところ何んと偶然なのか隣りの奈良武さんの長兄、義孝さんと西原出身の奈良平さん二名がいたではありませんか、中隊長の許可を得てひと晩三人で酒食をとにし、翌日前線へ送り出したと封書に書いてありました。この時の感激は数千キロはなれた異郷の地では味わえない事でした。

二十代そこそこの若者がこんな奥地まで来ようとは？父も四十代になつたばかりでしたが翌日二人を送りだしました。数日後前線から送られる戦傷者の情報で二名がインパールの手前の戦場で（カレフ付近）戦死したとの報に接し号泣したそうです。インパールまで戦線を伸ばしすぎた日本軍は、弾薬、物資が益々逼迫し前線部隊も蟻の一穴ではないが崩れはじめ、野戦病院も撤退せざるを得なくなり、戦傷者は増加し、全部隊に撤退が命じられました。食糧はなくなり、マラリアは増えるし餓死する者、そんな中をタイに向つて敗送し自分もマラリアに感染する等、どうやってシャン高原を越えたのか？自分でも無我夢中で覚えていないそうです。それでも終戦の日には無事に北タイのチェンマイへたどりつきました。この頃自宅では長男が旧制中学校五年生で稲城市の火薬工場へ学徒動員で行つていま



タイ バンコックにて(父左)

したが、薬害による病気で帰され、終戦間近な日に急逝してしまいました。おそらく父が悪戦苦とうしていた頃、父の身代りになった事でしょう。この頃流行した言葉に!!ジャワ（現インドネシア）の極楽、地獄のビルマ、死んでも帰れぬニューギニア!!という話があったそうです。

戦後八十年を過ぎ、本書を今は亡き父と、異郷の地で果てた若き兵士諸氏に哀悼の意をささげます。この様にして日本軍が強行したインパール大作戦は失敗し後世にその悪名を残しました。なお軍事郵便は集録誌とともに山梨県立博物館に記念として寄贈いたしました。

以上

「友よ」

新井陽亀会 高橋勝利

私、ただ今七六才、後期高齢者の仲間入りをして二年目になりました。

健康面はいたって良好、体力年齢も六三才だと体重計はいつています。

私、現役を引退して既に十有余年、趣味の碁、好きな本、それに、妻としている毎朝の体操、散歩が日課です。

現役当時には、自分では打たず、若い人任せにしていたパソコンも今日は多少できるようになり、毎日これを相手に碁に興じ、週末には仲間と碁打ち、勝った負けたで一喜一憂しています。

最近、年の所為か以前のことをよく思い出します。

私には、六十年間もつき合った友人がいました。

もう俺達は「腐れ縁だな」とお互いに認め合っていたものでした。

私は、その友人から教えられたことが多々ありました。十六、七才からのつき合いで、「本」の魅力を教えてくれたのも彼でした。

私は、その楽しさに取りつかれ、一時期は乱読もいいところで手当たり次第に読みあさっていたこともありました。

私が特に好きな作家で今でも印象に残っている作家は、山本周五郎と吉川英治です。柳橋物語、樅の木は残った、正雪記、栄華物語などなど……。

周五郎は「陽の当らない庶民や世に悪人と評されている人物に光を当てた作家」でその表現力豊かな描写は心憎いばかりです。

又、吉川英治の宮本武蔵・三国史などの作品は共に長編ものですが、七・八回は読み返しています。何度読んでも飽きないばかりか、いつも同じ個所までくると心が震え必ず涙したものでした。

「ああ、俺って少しも成長していないな」と考えさせられたこともありました。

もう少し、友人の話をさせて下さい。

彼は、福井から名古屋に出、高校に入りたて一心で中学時代の恩師に手紙を書き当地に来たとのことでした。

ここで知り合ったのが最初、その後、友人はどうせ四年ものブランクがあったのだから

「俺は大学に行く」という彼の影響で私も進学しました。

縁とは、不思議なもので、その後、職場も一緒になりました。職種も前後の差こそあれ、ほとんど同じコースでした。

私は、おこがましくも彼をライバル視して彼を目標に働きました。

ああ、そうそう、妻との再会の機会を作ってくれたのも彼でした。酒もカラオケも、もちろん一緒に楽しみました。いろいろなことで大いに議論もしました。

今考えれば、楽しかったですね。

でも、お互いに不即不離の関係は保っていました。

そんな彼が過日（R二年七月）、こっちの都合も聞かずに「ジャーナ！（？）」と黄泉の世界へ往ってしまいました。

寂しいものです……。本当に……。

でも、でも、私は今少しこの世においてもらいたいと思っています。暮も強くなりたい。そして、あの世に行っても胸を張りたい。過日読んだ本ですが題名も作者も忘れましたが、千石取りの旗本が切腹を拒み、北のはてに流刑される間の道中記でした。さすが売れ筋の本でした。久しぶりに一気に読み終わりました。

好きな酒も、未だ未だ飲み足りません。

ああ、そうそう妻ともゆっくり旅行も……。

「共感する」ということ

新井陽亀会 水越茂子

最近、印象に残った言葉に、眞子さまが今のお気持ちを「結婚は二人にとって必要な選択」と表現されたことだ。今の私に置き替ると、「必要な選択」はGOTOトラベルではなく不要不急以外の外出は控えること、だろう。が一方立場が変わるとまったく別の選択もあるだろう。コロナウイルス対策の難しいところだと思う。

友人から「腰が痛い」「歩くのも大変」と聞くとつい、「こうすればいい」「こんなストレッチが効果あるらしい」等々、テレビからの受けうり知識でアドバイスしてしまう。友人は相談しているのではなくて、辛さを分かってくれたい、共感して欲しいだけなのに。同じ様な事が家庭にもあるかもしれない。子供の職場、孫の学校の話、夫や妻のグチに、ついアドバイスしようとしていないだろうか。必要なのは、まず「共感すること」なのに……。

これもまたテレビか雑誌からの受けうりで恐縮なのだけれど、「亭主力を磨く三原則」というのがある。世の夫たちに向けたものだが、夫婦、親子、友人の間にも通用すると思うので、自戒の意味も込め、ご紹介したい。

亭主力を磨く三原則

全国亭主関白協会々長

♥愛の三原則

- ① ありがとうをためらわずに言おう
- ② ごめんなさいを恐れずに言おう
- ③ 愛してるを照れずに言おう

♥あいずち三原則

- ① そうだね
- ② 分かるよ
- ③ そのとおり！

意見を聞きたいのではなく、共感して欲しい。

「亭主力」とは妻の笑顔を引き出すこと。

（以下略）

夏の思い出

山風呂老人会 佐藤好文

夏が来れば、向風下の発電所前から鏡渡橋下の通称、一番、二番、三番鏡渡きやうどの深く青く、所によりうずを巻く程の流れの速い淵が入谷地区の子供達の泳ぐ所であり、「あんまづり」や「カジツカ」をガラス張りの箱面でのぞき、五本鎗のもりでつく漁の場所であった。一日に帆布製のオトリ箱に一杯捕ったのに、次の日も同じ位捕っても「カジツカ」が居なくならない不思議な川だと思っていた。

夕方近くなれば、数本の昨年から手塩にかけて作った、一本竹ザオの「流しうき釣り」のサオが、八米川原にならぶ、竹ザオは十二月の冬休みに入ると子供達は、地区のお宮さんで元旦の朝、初詣に来る人達を暖く迎へる。おたき上げの薪木を集めに山に行つたとき、自分で選んだ自慢の竹ザオである。一本、一本に火を入れ、くせ「曲がり」を直し庭先に立て並ばせ曲がりがないか、毎日ながめ、手でなぜなじませる。解禁は六月一日!!すでに新井の「久島菓子店」で買った。「流し釣り」の仕掛け一式と「タラシモチ」に砂糖じょうゆを付けたのを、ていねいに紙で包み、オトリ箱と竹ザオを持って八米川原をめざす。小倉おくらの要害山にかたむきかけた陽がキラキラ光る川面にアユが飛び跳ねる。あつちでピツシャ、こつちでポツチャ、アユが俺達に釣られるのを待っている?。と思うと竹ザオに「しかけ」を付ける手がふるえる。手にツバをつけ一投目、上流にピューと落すスーと糸が張り赤いうきが流れる。ピクピクとうきが沈み、向う合せてグイーと竹ザオを立てる。ビリビリとアユの

かかった感触が手に伝わる。仲間とニヤとかわす笑顔。あつちでこつちでサオがしなう。まだ小さい若アユのピチピチしたのが川面から上がって来る。手元ににぎるとアユ独特の匂いが広がる。

日が沈みあたりが夕闇になるまで何十回ものサオ振りが続く。うき近くで若アユが跳る。「こんちきしょう」と思いながら又サオを振る。初夏の子供のたのしみであり、家族が味合う今年のアユの味である。帰る頃には周りは暗くなりホテルがスィー、スィーと淡い光を放しながら一匹、二匹と飛び始める。手に届く位の近くまで飛んでくる。少しも珍しいことでもないで何の気にとめず、ながめながら家路を急いだことが、七五才になると本当にあったことと思いついて、自分の子供や孫に語ると「そんなあ」と疑る目で見やがる。だが幼馴染が集まればそんなことはない!!あの時は誰が何匹で俺は何匹だったとか赤い毛バリより青黄の毛バリの方が良かったなどと昨日のように鮮明に言う等々。

こうゆう思い出があることはその人の財産だと思う。そして、一番から三番鏡渡での少年期のいくつかの試練を越えたあの時のような「ドキドキ」感とくは齢と共にうすれてはいるが、少し工夫をして、残っているだろう情熱を持って、今だからこそチャレンジしてみたくなった「夏の思い出」である。これを読んで子供の頃に泳いだ鏡渡橋下のたのしかったことが酒のサカナになれば幸である。「新型コロナに負けずに頑張ろう」。

注、今の発電所前や鏡渡橋下は人が入ることが出来ない位に木や草に埋もれている。

令和二年十一月記。

研究

日本、花の文化小史(二)

塚場長寿会 諸角 弘

平安・鎌倉時代の花々

平安・鎌倉時代になりますと文献資料も豊富で花文化も明確になります。花文化も貴族から武士に移り、また寺院の果たした役割も大きく、花文化は着実に上昇、栽培が前面に押し出されました。

栽培されたのはアサガオ、キク、トコナツ、ホテイチクなどで、中国渡来のものが目立ちます。

アサガオ

アサガオは奈良朝の五、六世紀頃、朝鮮半島から来日の採薬師と共に渡来したと考えられています。中国では紀元前から下剤、利尿剤として利用され、日本においても薬用として栽培されました。アサガオは牽牛子けんぎうしともいいますが、種は牛と交換されるほど珍重されたそうです。

アサガオの花の色は、渡来してから江戸初期迄の千年間は青一色でした。写真は原種に近い「青並葉青丸咲」です。



キク

キクは万葉時代にすでに日本に渡来していました。万葉集には一首もなく、栽培は平安時代に入ってからです。

キクは中国原産で変異性に富み、五、六世紀の宋の時代に爆発的に多品種が生まれ、花栽培の重要な地位を占めました。

平安時代に「菊合せ」といって清涼殿前に菊花壇を設け、歌を詠み菊酒を飲む行事が行われ、これにより菊栽培に拍車がかかりました。写真はノギク。

後鳥羽上皇とキク

鎌倉時代、後鳥羽上皇は殊のほか菊を好み菊花模様を衣服につけ、これが皇室の紋章の起源となりました。

後鳥羽上皇は承久の乱で幕府に敗れて隠岐に配流となりましたが、それに先立ち画家の藤原信実を召して落飾前の姿を描かせたのが上の図です。残念ながら直衣ちよくいの模様は菊花でなく臥蝶丸でした。

トコナツ

ナデシコ科の多年草で、花の色は紅、白、ピンクで可憐な花をつけます。倭性で四季咲き。栽培は鉢植えで、挿し芽や株分けで繁殖します。



竹

竹は古くから日本に渡来。松とともに厳寒にも緑を保ち、梅を加えて「歳寒の三友」とされ、慶事に不可欠の植物でした。竹は建築や生活用具の資材として大いに利用されましたが、何よりも竹や竹林のもつ風情が賞美されました。

写真はマダケです。

水仙

水仙は地中海原産で、平安時代に渡来しました。一休禪師の詩に水仙が詠まれています。他にはなく、貴族たちの関心は専らウメやキクで、水仙には目を向けなかったようです。しかし水仙は、淡路島や北陸の海岸地帯に大群生を出現させて、見応えある風景を形成しました。

鉢の木

平安・鎌倉時代に鉢植えの植木つまり後世の盆栽と呼ばれる「鉢の木」の栽培と観賞がはじまりました。

以上のとおり、万葉の時代は野生の花を観賞していたのに、時代の進展とともに花木を栽培するという「園芸」の段階に入り、栽培されるものの重要度がぐんと高くなりました。



花の室町ルネッサンス

室町時代に入り諸生産物の増加や生活文化の向上を背景に、日本の花文化は独自の創造的大進展の道を拓きます。これを「室町ルネッサンス」と呼んでいます。

発展の第一歩はツバキとサクラの品種改良です。この時代、世界ではバラ・ボタンの低木の改良のみで、高木性の花木の改良例はありません。記紀・万葉の時代から関心のもたれていたツバキとサクラは、大発展を迎えるのです。

ツバキ改良の不在

ツバキは日本文化の中国への輸出の第一号で、隋の煬帝に贈られました。

ツバキは日本原産で、中国に渡って逆輸入された改良種に刺激されたのが宮廷貴族で、改良に尽力したのです。そのとき、ユキツバキの変異しやすい性質を利用し交雑に成功、改良に貢献しました。

最も愛されるツバキ

日本で一番愛されているのは一重咲きで、写真左上の「玉ノ浦」もその一つです。私が、米国の豪華な改良品種を栽培したところ、日本椿協会長さんから「原種が良いのに」と苦言を呈されました。



五色のツバキ

相模原市若柳の正覚寺に神奈川樹木百選の「若柳の五色ツバキ」があります。白・赤・ピンク・絞りなど一本の木に五色の花を見せてくれます。

大紅おおくれなひというツバキ

私の好きなツバキに大紅があります。伊豆旅行のホテルの玄関に飾ってありましたので「大紅でしょう」といったところ、帰りに頂きました。が、育成に失敗してしまいました。大紅の花芯の雄しべは先細りで端正、色は冴えた朱紅色で、他を圧する質量感が魅力的です。

ワビスケ

ツバキにはワビスケという小型花の品種群があり、茶席の花として重用されています。ワビスケは日本のツバキからの変種とは考えにくく、現在、その原種は不明です。写真はヒメワビスケ。縦絞りの明瞭なワビスケは珍しく、さらに雄しべにご注目！ 先が曲がっています。この他にサザンカという品種群があります。これは日本原種です。枝が直立するものと横張りするものがあり、垣根に利用されています。



日本を代表するサクラ

サクラは日本を代表する花として花の文化の重要な存在です。

サクラは大きく二つに分類されます。

野生種―山野に自生。サクラらしい姿で

観賞対象として重要。五種あります。

園芸種―品種改良により作られた品種。

サトザクラともいいます。

右上の写真は野生のヤマザクラで、葉と花が同時に開くのが特徴です。色はピンク、要するにサクラ色。

エドヒガン

開花は早い。樹形は這う形、枝垂れるなど千変万化します。長寿の野生種です。

北杜市の山高神代桜(写真)は樹齡二千年といわれ、わが国の天然記念物の第一号で、岐阜の薄墨桜と共に日本三大桜に挙げられています。共にエドヒガン。

オオシマザクラ (左上の写真)

花は大きく白色、葉は長さ10cmにもなり桜餅を包むのに用います。塩蔵すると化学変化し独特の香りを放ちます。多くの園芸種の片親になっています。

オオヤマザクラ (次頁の写真)

高山や寒地に自生し野生種の中で最も



色が濃く別名ベニヤマザクラ。満開は見事で豪華爛漫となりますが奥山なので見る人はいません。雪や霜の害を防ぐため芽に粘りがあります。

野生種としても一つカスミザクラがあります。以上五種が野生原種です。

園芸種の王様ソメイヨシノ

野生種とは別にサトザクラと一括される園芸種があり、人工交配したり環境に適応して新しい個性が誕生するなどして優れた多くの品種があります。

ソメイヨシノはその代表格で、日本のみならず世界に知られ、その美しさが愛されています。写真は月見が池で。

ソメイヨシノの生みの親

ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの交配したものです。筑波大学岩崎文雄教授の研究により、江戸染井村の植木職伊藤政武が人工交配により創り出されたものと、突きとめました。これまでに房総や伊豆での自然交配説がありましたが、時期的・地域的に自然交配は不可能だったのです。全国のサクラの80%はソメイヨシノですが、その遺伝子は全国すべて同一です。



サトザクラのいろいろ

日本三大桜のもう一つは福島県の三春滝桜（写真）です。日本一巨大なシダレザクラで推定樹齢は千年です。細い枝が滝のように垂れ下がるのが特徴です。

小菅の八重桜

小菅村のふるさと広場に咲く豪華な八重桜。役場の方に調べていただきましたが品種名は不明です。八重桜には麒麟きりん、開山かいざんなど数多くあり、私には「白山大手毬まり」^{はいくさんおおて}と思うのですが、花卉の形や数と咲き方など細かに調べる必要があります。素人の即断は避けなければなりません。スライドですとたくさんサトザクラを紹介できるのですが、誌上では残念ながら以上とさせていただきます。

花見の賑い

花の品種改良の進展というのはこれを歓迎して受けとめる人間の文化があるからで、その現れの一つが花見です。豊臣秀吉の醍醐の花見は史上有名ですが、今日では桜の開花情報が流れ花どきには花見の賑いとなります。かくて我が老人クラブも高遠のコヒガンザクラの花見となりました。花より団子であります。（続）

サリー物語 序章 上野原へ

原明朝会 長坂 幸夫

私はマルチーズと呼ばれる身体の小さな部屋の中で生活する白の小型犬です。私は一九九八年の七月初めの頃、山梨県上野原市の長坂家の一員になったのです。そのきっかけとなったのは長坂家の長男である真一さんに、東京都昭島市の路上をあてもなく歩いているところで幸運にも拾われたからです。その日は六月末の梅雨の最盛期で冷たい雨で私の身体は見るも哀れなず濡れの姿でした。私が道の端で通る車をよけながら、とぼとぼと歩いていると私を通り越して一台の車が止まり運転席のドアを開けて一人の男の人が「おい」と呼びかけてくれたのです。その人が私の「命の恩人」真一さんでした。

この時、私は家出して飲まず食わずの毎日で身も心もよれよれの姿でただあてもなく歩くのでした。道行く人は誰も相手にしてくれませんでした。私は真一さんの声に振り向くと我を忘れて真一さんに飛びついたのです。真一さんはその暖かく大きな手で私を抱き上げて運転席へ乗せてくれたのです。

しかし、真一さんは私を拾ったものの、この後どうしたものかと思案しているようでした。この頃真一さんはアパート住まいをしていたからです。しばらくしてある意を決したようにエンジンをかけ車を走りだしました。助手席の私はまたどこかで捨てられるのでは

ないかと不安な気持ちでいっぱいでしたが、真一さんは何か心に決めた様子で車を走らせました。そして、立川市のさるペットショップに行き私を洗ってくれないかと、そして、しばらく預かって欲しいと、事情を説明して交渉してくれたのです。ペットショップのご主人は捨て犬を助ける奇特な人と思ったのでしょうか。

「いいですよ、何時受け取りにきますか」

「それは有り難うございます。仕事の関係もありますので今週の土曜日まで三日ほどお願いします、必ず引き取りに来ますから」

と話がまとまり、真一さんは住所と電話番号を書いて取りあえずの代金を払ってくれたのです。私は真一さんの顔をじつとどうぶつ見つめると同時に姿をしっかりと脳裏に焼き付けたのです。こうして雨に濡れ泥にまみれ体中に蚤の沸いた身体はきれいに洗われ美味しい食事何日振かにとれてすっかり甦ることが出来ました。

三日後の土曜日、真一さんは約束通りお店に現れました。私は真一さんの姿と声を聞いて嬉しくてゲージの中で飛び跳ねた。本当に自分を引き取りに来てくれたのです。お店では胸輪とリードを用意してくれて真一さんに

「いい子ですよ、可愛がってくださいね」

と私を引き渡してくれました。

この日、真一さんは仕事の車ではなく乗用車で迎えに来てくれました。私は車に乗るのが大好きで真一さんがドアを開けるや助手席に飛び乗った。真一さんは自分のアパートではなく何処へ行くのか決めてあったようでした。

かくして、私は真一さんの両親が居る山梨県上野原市の真一さんの実家へ向かうことになったのです。真一さんの考えでは、きつと

動物好きの両親だから間違いない引き受けてくれると推測したのでしよう。

真一さんは私を連れて家に入るなり「この犬を東京で拾ったがなんとか面倒をみて欲しい」と両親に頼みこんだのです。すると父親のおじさんはこりと私を見つめ「おー、かわいい犬じゃないか、どうしたんだ」と顔色も変えず「いいよ、お母さんもいいね」と、あつという間に話はまとまったのです。私は真一さんの膝の上で「ああ、ここが新しい私の家なんだ、もう夜も安心して眠れる」と感謝の気持ちでいっぱいでした。

事件はその日の夜に起ったのです。起ったと言うよりも起こしてしまっただけというのが正しいでしょう。私は真一さんはずっと一緒にいてくれるものと思っていたのですが、真一さんは夕食を済ませると私を置いたまま帰ってしまったのです。玄関でおじさんに抱かれて真一さんを見送ったのです。真一さんは私の頭をなでながら「また来るからね、いい子しているんだよ」と出て行ってしまったのです。私は真一さんのあとを追いかけたかったが、おじさんに抱かれているのでどうしようもありません。床に降ろされると、ただ、うろうろと部屋の中を歩き回った。ただ、おじさんとおばさんは突然闖入した私に水や食べ物を用意したりと親切に応じてくれました。そのことが分かって私の精神状態は不安で落ちつきを失ってしまいました。そのような状態で最初の夜を迎えたのです。

夜も大分ふけて九時頃であつたでしょうかおじさんが寢室の戸戸を閉めようとガラス戸を開けた時、おじさんの足下をかくぐって庭へ飛び出したのです。

「おおい、だめだよ」とおじさんの声が聞こえましたが、私は振

り向きもせずに暗い庭を門の方に走りました。そして、真一さんが出て行ったであろう道を追ったのです。しかし、真一さんの姿はあろう筈もなく暗い道を歩き回るだけでした。

「真一さん、真一さん、どこにいるの」

私は必死になって街路灯の少ない夜道をただ歩き回るだけでした。

おじさんも私を探して暗い夜道を歩き回ったのですが、私には名前が付いていないため名前を呼ぶことも出来ず探すのを諦めて家へもどったのでした。

おじさんから私が見つからないと告げられたおばさんは大変ショックを受けたようでした。

「真一には済まないが探しようもない、これも自らが選んだ運命だね」

とおばさんに言ったおじさんとおばさんは諦めて、その後、私が帰って来るとは思いもよらず寢床へ入ってしまったのです。

一方、私は真一さんを追いつめて暗い夜道をどのくらい歩き回ったか分からないが、ふと、われに返ったのです。

「そうだ、私の新しい家はあの親切なおじさんのいる家なのだ、帰らなければならない」

私は自分のたどってきた道をたどればきつとおじさんの家に行けるに違いないと考えたのです。私は私の残した足跡の臭いをたよりに鼻を地面にこすりつけるように歩いた。それはおじさんの家に確かにつながる幸運の糸であつたのです。

私はさつき飛び出した門にたどり着くことができました。おじさんもおばさんも寝ているようで家は静まり返っていました。私は庭

に回って見ると雨戸が閉まっっていて部屋の中の様子は分からないが、私はこの雨戸の向こうにおじさんとおばさんが居るに違いないと思いました。私は思いきつて前足で“どんどん”と雨戸をたたき「おじさん開けて」と叫んだ。すると中から「おや、なんだ」と声がして雨戸が開き「おお、よく帰って来たね」とおじさんの手がさしのべられ、私の体をしっかりと抱きしめてくれたのです。そして風呂場で土で汚れた私の足を洗って部屋に入れてくれました。おばさんも「よく帰って来たわね」と喜んでくれたのです。時刻は午前三時頃でした。

その日の朝、朝の食事をしながら、おじさんは「この子は相当頭がいいね」と私を褒めてくれました。私はその言葉を聞いて、おじさんもおばさんもいい人なんだ。私は安心して寝不足の体を茶の間の座布団の上に横たえた。この時からおじさんとおばさんは私を一生可愛がってくれたお父さんとお母さんになったのです。



未来を担う子ども達が、心豊かに逞しく育つことを願って

タンポポの約束

沢松親和会 市川 幸子

ここは街はずれの小さな空き地です。

「ワアー、お日さまが、あつたかいね」

「ほんとだ。私、お日さまが大好き」

暖かい春の日差しをあびて、タンポポの花が、小さな小さなお日さまのような花びらをいつせいに開きました。

何日か過ぎて、タンポポの花はフワフワの白い綿毛に変わっていききました。

「明日は、みんな離ればなれになっちゃうんだね」

「私は、春風さんにお友だちがいっぱいいる野原に連れてってもらいたいな」

「私は、母さんのすぐそばがいいな」

綿毛たちが、そんな話をしていると、

「ねえ、私たち、どこへ飛ばされて行くんだろうね」

一つの綿毛が、心配そうに言いました。すると、他の綿毛たちも、

「ほんとだね」

「どうしよう。こわいな」

綿毛たちの、不安そうな様子に、母さんタンポポは、

「大丈夫だよ。私たちタンポポは強いんだから。どんな所に行っても、負けないで、頑張って花を咲かせてね。これは母さんとの約束」

束だよ」

「うん、わかった。私たちタンポポは強いんだよね」

「私、頑張るよ」

「私も」

綿毛たちは、母さんタンポポと約束しました。

次の日、真つ青な空に、お日さまがニコニコと顔を出し、

「さあ、みんな、頑張つてね」

と、言うように優しく光を投げかけています。やがて、春風がそ

よそよと吹いて来ました。綿毛たちは、風に吹かれて一斉に飛び立ちました。母さんタンポポは、

「みんな元気だね。どんな所へ行っても負けないで、頑張つて花を咲かせるんだよ」

心配そうに見送っています。

綿毛たちは、風に吹かれてフワフワと飛んで行きます。見る見るうちに、母さんタンポポのいる空き地が、小さく小さくなって行きました。

「わあー、気持ちがいいね」

「ほんとだね。鳥になったみたい」

綿毛たちは、ごきげんで空の旅を楽しんでいました。

ところが、ふっと、風が止んで、綿毛たちは、クルクルクルと回りながら下に落ちて行きました。

「わあー、目が回る」

『母さんのそばがいいな』と言っていた綿毛は、道路に落ちてしまいました。

そこへ、ドドドドッと地響きを立てて、大型ダンプが通り過ぎる

と、その時の風に吹き飛ばされた綿毛は、車道と歩道の間に出来た、狭いすき間に落ちてしまいました。

突然のことだったので、自分がどこにいるのか綿毛にはわかりませんでした。でも車の通る音がとつてもうるさくて、特に、時々地響きを立てながら通る大きな車の音に、綿毛は怖くて震えてしまいました。でも、『どんな所へ行っても負けないで、頑張つて花を咲かせてね』と、母さんと約束したことを思い出し、

「私、頑張る。絶対に花を咲かせる」

と、心に決めました。

綿毛がグルーツと辺りを見回すと、コンクリートとアスファルトの隙間から、青い空が細く見えました。そして、下には土埃がたまっていました。

一人ぼっちの綿毛は、心細くて泣きたくなるのをグツとこらえながら、土の中に強く、長く根を伸ばしていきました。

夏が過ぎるころには、四、五枚の葉が車道と歩道のすき間から顔を出しました。でも、葉を思いつきり広げることはできません。大きな車が通る度に巻き起こる強い風に、タンポポの葉は引きちぎられそうです。そんな時は必死にこらえて、車が通り過ぎるのを待ちました。

そんな毎日が過ぎていくうちに、タンポポの葉は、大きな車が通っても平気になってきました。

やがて秋も過ぎ、寒い寒い冬がやってきました。タンポポの葉は、毎朝力チカチに凍っていました。

「春になったら暖かくなるから、それまで頑張らなくちゃあ・・」
タンポポは、冷たい風や、時々降ってくる雪にも、母さんたんぽ

ぼとの約束を思い出し、じっと我慢しました。

寒さをこらえながら眠るタンポポは、いつも、暖かい春のお日さまが、ニコニコ笑いかけてくれる夢を見るのでした。

やがて、少しずつ、お日さまの光が暖かく感じられるようになって来ました。待ちに待った春がきました。タンポポは、眠っていた間に、小さな蕾が一つだけ出来ていました。蕾は、一日ごとに茎を伸ばして行きました。

蕾は、道路の隙間から、顔を出し、お日様の光が当たるくらい大きくなりました。

お日さまの光が当たると、小さな蕾は、まるで、小さな小さなお日さまのような花を開きました。

「母さん、私、頑張ったよ」

母さんタンポポとの約束を、ちゃんと守れて、タンポポは嬉しさでいっぱいでした。

お日さまも、『頑張ったね』と言うように、優しく光を投げかけていました。



俳句

コモアシニアクラブ 今 友子

親心後世安穩^{あんのん}と桐の花

蜥蜴の尾切れて尻振り半回転

金木屋今朝の香りに息ひとつ

コモアシニアクラブ 金子久雄

惜しむるや雲に隠れる十三夜

小春日や四十七年黄泉の国

菊香る和装きりりとすまし顔

コモアシニアクラブ 佐藤 纓子

初生りの柿一つきり空の中

通り雨川辺離るる浮寝鳥

夜を託^{かた}つばあさん独り隙間風

コモアシニアクラブ 鈴木 千年

高き峰ぴんと張りつめ冬に入る

酒蔵は明治の名残り秋澄めり

鰯雲ダム湖の深き青磁色

コモアシニアクラブ 田代 研一

落ち葉して富士の稜線宙を切る

「あずさ号」過ぎて残りし稲架に雨

蟻の列三十八度線を越ゆ

コモアシニアクラブ 田中 醇治

風の音武田の城跡つくづくし

軍団の出陣もなし春卯月

三密は守れないぞと燕の子

コモアシニアクラブ 廣井 勝美

駆足の青年の過ぐ夕薄暑

夏空を写す路上の水たまり

爪痕を残す大樹や秋の雷

コモアシニアクラブ 山本 婕子

掃き雲のうすうす吹かれ秋日和

紅葉晴れ昼の散歩の家族づれ

黄落や朝日浴びつつ大銀杏

沢松親和会

尾形綾乃

島田桂生会

安藤久

穂薄や子守る爺の背鬼子母神

鎖桶ドシラソファミレ梅雨明ける

ツインベンチの老と子に天高し

雪雑る旅の茶房の蕎麦ぜんざい

日なたぼこ薬に勝さる無駄話し

梅雨寒やピアノを転ぐ綿埃

黙々と春の土解く耕運機

山巔の春雪黄金の陽を返す

送葬の宵をひた鳴くちちろ虫

竜神の泉足場に冬の虹

沢松親和会

尾形富美子

島田桂生会

小俣田鶴子

花吹ぶき山懷に六地藏

「又来るね」みやげに持たす栗ごはん

大根煮旅のみやげの酒に酔う

ホールイン空を賑わす赤トンボ

廃屋の庭の片隅寒椿

陽炎を一気にぬけりダンプカー

氏神の若水に杓新しき

青墨の香りになごむ筆始め

雨露のしたたり萌える竹の春

堀越に見えかくれする冬帽子

沢松親和会

小俣キヌ子

新一青老会

安藤美津江

満開の桜の里も人気なし

陽燦さんと庭の記念樹初音聞く

閉園の園舎残りて露の臺

かるやかに塗装職人初夏の風

父の日の団扇に記す神の愛

桐の花ここより先は甲斐の国

かたつむり雨をはじきて透き通る

ヒマワリやコロナに負けずりと咲け

燃ゆるもの掌の中に秘めて林檎むく

霜柱消えたる夢の多かりき

新一青老会

土屋澄子

ほんのりと紅さす乙女初鏡
クロッカス群れ咲く庭の日溜りに
囀りや畦道走るランドセル
群生の鈴蘭白し遊歩道
花屑の埋め尽くされし寺の庭

新一青老会

中村悦子

伸びていく草もおし黒揚げ羽
赤トンボ姿まねして腰をまげ
鰯雲ハングラライダー飛び立てり
空つ風軒を色どる吊し柿
日向ぼこ縁側恋し里恋し

新井陽亀会

遠藤一子

ハッ風しスイッチバックの今は無し
コロナ禍のマスクの下も紅を指し
花吹雪白髪の夫婦肩ならべ
萩活ける灰掛釉の器かな
木犀の大木花を振り落し



川柳

沢松親和会

小俣庄三

熱中症とコロナ対策やつかいだ
あれもダメこれもダメかよコロナ禍で
眠れぬ夜しじまの中にギーチヨン
黒い雨被爆者手帳交付して
除外した理由あいまい菅首相

島田桂生会

大月 佐江子

振興券神棚に置き期限切れ
ボケてたまるか胸に秘めたる好奇心
卒寿の母はお迎え来と仏壇に
無理をせぬ齢相応の美しさ
AIに職と人情奪われる

小沢寿会 森川耀雄(明雄)

自転車に乗れたと自慢の孫の顔
ひと目ぼれ写真の娘いまは妻
重ねきし美しき年九十年
またひとつ愚痴が出たよね年のせい
身を切って欲しいよ今の政治家は



短歌

新一青老会

波多野 千江子

向い山青葉若葉のグラデーション
梅雨の晴間霞たな引く

園児等は母の手作りマスクして
コロナ予防園バスに乗る

夏休みなれども子ども達の姿無く
コロナ騒ぎ散歩の人も無し

暑さ何んて何處吹く風と空蟬は
梶の古木に張付き光る

セコム切り雨戸を繰れば電線に
仲良く並ぶ雀にお早よう

小沢寿会 森川耀雄(明雄)

(第二次世界大戦後七十五年に想う)

青春の喜び見ぬ間に国のため
異郷に散った若ものあわれ



詩

故郷

沢松親和会

大神田 ふみ子

松留のわたしの家の裏庭から

八幡さまは少し見下ろすかたちで 正面にみえ

八ツ沢の部落は 八幡さまにいざかれるように見える

そのうしろに扇山

あの山のずっと向こうに 故郷が

今年もあの空の下で 毛糸花は咲いただろうか

菊は咲いているだろうか

果物は たわわに実っただろうか

落ち込んだとき

さびしくなったときここに座り じっと空を見る

あの空が故郷につながると思うと

こころが大きくなり 元気になる

わたしは この風景が好き



朝の散歩

バイパスから河川敷に降りると

東の島田湖あたりは湖面いつぱいに靄がはい

中心から右方あがりにおびとなり

ゆっくり ゆっくりあがつていく

中段には棚雲が濃淡の金錆び色に変わり

それをうけた諏訪地区が影絵のごとく浮き上がり

幻想的な風景が広がっている

「おはようございます」

あそこの土手から

この道から 朝の散歩人が降りてくる

「気持ちがいいね」

「今日も天気よきそうだ」

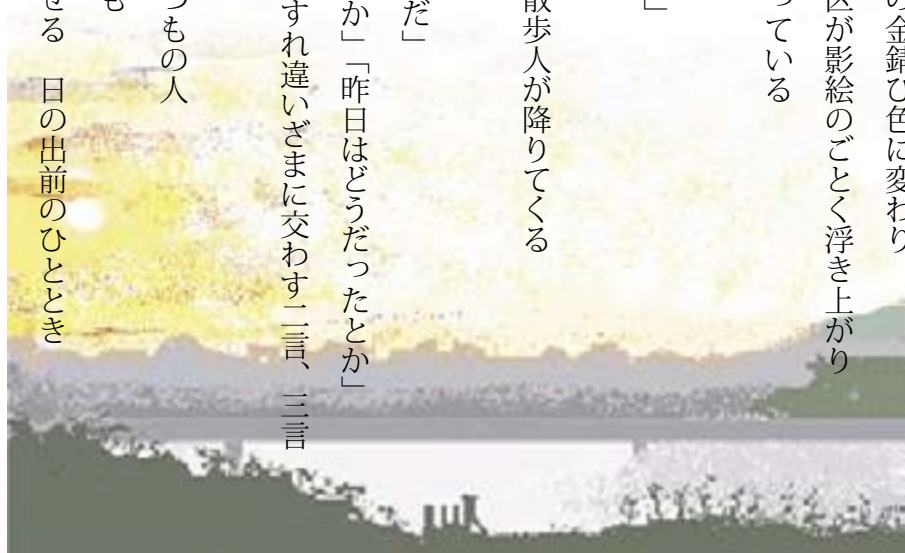
「今朝の鴨はどうだったか」「昨日はどうだったか」

「犬がかわいいとか」すれ違いざまに交わす一言、二言

はじめて見る顔 いつもの人

巷ではすましていても

ここでは笑顔で交わせる 日の出前のひととき



欲

金も何もいらない

毎日健康で 楽しく暮らせたらと

いかにも欲がないようなことを言い

つい 美味しいもの

欲しい物に手を出すわたし

優柔不断な自分の心が

ちくりと 痛い



嫌気

厭世的な気分が

スクラム組んでやってくる

あんなに慰めあった仲なのに

目が怒っている

なんで どうして

昨日までのあなたはどこ

正視しないで 返ってくる言葉がこわい

次に問う言葉もでない

誰かに相談できたら

そう思っても

誰にもいえない この気分

他人からあなたを 悪くもいわれたくないから

そして

そのつらさを見せない 見せないようにする

それが私の性分 嫌な性分

永く 近くで付き合えば 付き合うほど

違いがわかる

互いの考えが違うからこそ 進歩がある

悪く思うのはよそう

嫌な思いをするのは 自分だから

タンポポの花のように

作詞／作曲：市川幸子

歌

沢松親和会

市川幸子



1. タンポポのはなのように きむいふゆにもまけないで
2. タンポポのはなのように どんなところでもくじけない



ながくげんきにつちのなか ねをのばして
つよくおおきく つちのなか ねをはって



はるがくるのを まって いる
みらいゆめみて ねむって



やがてはるのかぜがふき まるでちいさなおひさまみたいな



はなをひらきー おおぞらにむかって



あかるくえがおで うたおうね



タンポポのはなのように

歌謡詩

上野原ふるさと賛歌

本一寿楽会

黒川良人

一、後光の朝日に 山並み映えて

希望の一日 元氣な笑顔

河岸段丘に 栄える町よ

我らのふるさと 上野原

二、塚場の石棒 縄文びとの

伝わる鼓動に ロマンを馳せる

甲相境の 旧跡辿りや

船守伝説 諏訪番所

三、牛倉神社の 例大祭は

市民が総出の 三大祭り

勇壮神輿と 優雅な山車が

神様崇めて 盛り上がる

四、女神が見守る 月見が池の

真夏の祭典 江ノ島神社

灯籠流しと 彩る花火

そばで見ている 大ケヤキ

五、八重山パノラマ 絶景よそに

トレイルレースの 選手が走る

軍刀利神社の 歴史を秘めた

桂の神木 奥の院

六、せせらぎ軽やか 鶴川沿いを

あなたとドライブ 心が躍る

長寿の里から 羽置の里へ

お伽の世界の 道すがら

七、大野の貯水池 恋風渡り

重ねた思いに 桜がなびく

稜線遥かな 権現山と

連なり聳える 扇山

八、天空コモアの 家並み繋ぐ

シンボルブリッジ 幸せ乗せて

四つの公園 ふれあい広場

話が弾んで 花が咲く

九、河川の敷地に 仲間が集う

賑わうフェスタ ふるさと興し

歌声流れて こだまが返る

流れに夢追う 桂川

十、無生野伝承 大念仏は

雛鶴姫さま 供養の踊り

温泉湯けむり 秋山川の

未来の光に 風が鳴る

令和四年度「むろがや」

第三十九号

投稿のお願い

内 容

(1) 体験談、意見、感想、随想などお一人一点まで

※注：投稿はお一人一点とし、一〇〇〇字まで。

一〇〇〇字以上の作品につきましてはお断り
する場合がありますので、ご了承ください。

(2) 詩、短歌、俳句、川柳などお一人五点以内

原稿締切 令和三年十一月末

提出先 各単位クラブ会長

むろがや 第三十八号

令和三年三月三十一日発行

発行者 上野原市老人クラブ連合会

上野原市上野原三一六三

むろがや編集委員

市川武士 島田桂生会

杉本 茂 秋山高齢者クラブ

牧野伸吾 甲東きずな会

横瀬礼子 にしばら錦会

長坂幸夫 原明朗会

井上正路 原明朗会

井本克二 島田桂生会

長田勇一 新一青老会

事務局：石井源仁事務局長・鷹取直子

印刷所 カヤマ印刷

老人健康十則

小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
欲 言 怒 煩 車 衣 食 糖 塩 肉
多 多 多 多 多 多 多 多 多 多
施 行 笑 眠 歩 陽 齏 果 酢 菜

「むろがや」について

上野原市の老人クラブ連合会誌「むろがや」とは、岩波の『古語辞典』に「むろがやの生えている意か。また、地名『都留』にかかる枕詞か、また、地名か。『一の都留の堤の』（万三五四三東歌）とあり、古典文学全集巻四『万葉集』三五四三番に

室草の都留の堤の成りぬがに

見ろは言へども いまだ寝なくに

の一首があり、その大意は「都留川の堤の出来あがったように、二人の仲はすでに出来たかの如く、あの子は言うけれど、また共寝をしたわけではない」とあります。私は旧制中学国語の先生から「都留の枕詞」と教えられたことを、今も記憶しております。

* 「むろがや」の意味についての問い合わせを多数いただきましたので、「むろがや」第十六号に掲載されておりました故降矢敬雄氏の原稿を再掲させていただきます。



みんなが あいを育つ うえのはら

上野原市社会福祉協議会 基本理念